

市民ワークショップ ～あさかの未来を話そう～

結果報告書（速報版）

令和6年（2024年）2月
朝霞市

目次

1. 市民ワークショップの概要	1
1-1. 実施の目的	1
1-2. ワークショップ参加者	1
1-3. 開催日時と場所	1
2. ワークショップの経過	2
2-1. 当日の流れ	2
2-2. 各グループの議論・意見	3
★グループ1	3
★グループ2	6
★グループ3	9
★グループ4	12
★グループ5	15
★グループ6	18
★グループ7	21
★グループ9	24
★グループ10	27
2-3. 当日の様子	30
3. 総括	31
4. 資料	32

※グループ編成の都合上、グループ8は欠番である。

1. 市民ワークショップの概要

1-1. 実施の目的

第6次朝霞市総合計画の策定に当たり、朝霞市のよいと思うところや改善が必要と思うところ、未来の朝霞市がどんなまちであったらよいかなど、まちづくりに関する市民の意向や朝霞市の将来像について、市民と意見交換を行い、計画策定に生かすために実施した。

1-2. ワークショップ参加者

朝霞市在住・在学・在勤等、市に関心のある方28人
朝霞市職員16人(テーブルの進行役として参加)

1-3. 開催日時と場所

【開催日時】

1月20日(土) 13:30~17:00

【開催場所】

朝霞市民会館(ゆめぱれす) 新館2階 高砂の間

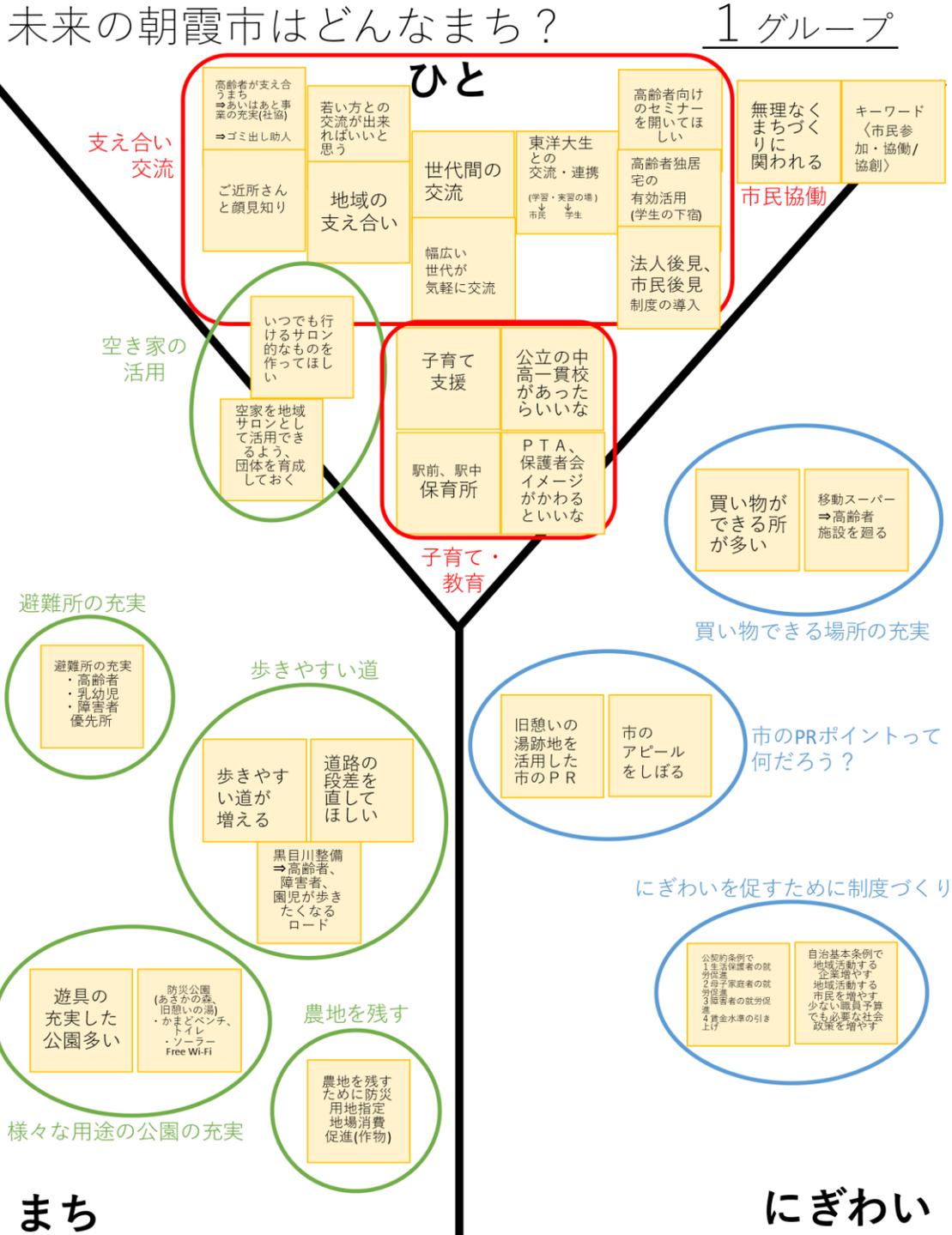
2. ワークショップの経過

2-1. 当日の流れ

1グループ5人程度の9グループに分かれ、グループごとに、現在の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところを出し合い、その後、朝霞市の将来像を話し合った。

時間	内容	備考
13:00	開場	
13:30-13:35	開会・あいさつ	ワークショップの趣旨説明
13:35-13:55	オリエンテーション	・総合計画の概要説明 ・ワークショップの進め方の説明
13:55-14:45	グループワーク① 今の朝霞市のよいと思うところ ・改善が必要と思うところ	普段の生活で感じている朝霞市のよいところ(特徴、資源、自慢、誇り)、改善が必要なところ(よくなってほしいところ、足りないところ)を出し合う。
14:45-15:00	休憩	他のテーブルの話し合いを確認
15:00-16:00	グループワーク② 未来の朝霞市はどんなまち?	まち(市街地、緑・公園、交通、防災・防犯)、ひと(子ども、教育・学習、健康、支え合い)、にぎわい(産業、文化、買い物、働く場)の視点を参考に、10年後の朝霞市がどのようなまちになっていたらよいかを話し合う。
16:00-16:25	グループ発表	各グループから発表
16:25-16:30	今後の取組について	分野別市民懇談会の告知等
16:30	他のテーブルの話し合いを見よう(自由解散)	

【1-2】未来の朝霞市はどんなまち？



【1-3】話し合いの要点

(1)今の朝霞市のよいと思うところ

- ①自然が豊か:天然アユもいて、自然度が高い綺麗な黒目川(土木学会景観デザイン賞受賞)がある。市が所有・借用している雑木林がある。都会だが田舎っぽい。
- ②公園整備:公園が多い。溝沼こどもプールやわくわくどーむがある。朝霞の森でバーベキューができる。朝霞の森と黒目川が景観づくり重点地区で自然度が高い。
- ③くらしやすい便利:都心から近くで交通の便が良い。市役所・出張所が駅から近い。スーパーが多い。コンパクトな市。生活しやすい。
- ④文化・コミュニティ:彩夏祭で街中での大きな花火。近所の人や市役所の人が親切。

(2)今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①子育て環境の不足:保育園や小学校が少ない。児童館や保育園が日曜日に休み。
- ②制度が不足している:法人後見制度がない。自治基本条例や公契約条例がない。
- ③インフラ:道路が古い。5小の歩道橋が古い。ごみ置き場をカラスが荒らす。
- ④人づくり:行政に人もお金もないのにやるべきことが増えているので、市民の活動を活発にし、行政に頼らない町づくりを促す必要がある。市の各審議会の市民委員や、各団体委員の練度を高める施策がない。
- ⑤その他:高齢者支援が弱い。水害に弱い。地域による差がある。

(3)未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・世代間交流や近所づきあいなど市民がふれあい、地域の支え合い・交流があるまち。
- ・空き家を地域サロンとして活用できるよう団体を育成しておく。
- ・「市民参加・協働/協創」をキーワードに市民が無理なくまちづくりに関われるまち。
- ・公立の中高一貫校や、駅前・駅中に保育所をつくる等、子育て支援の充実したまち。

【まちに関するもの】

- ・黒目川の整備や道路の段差を減らす等、歩きやすい道が増える。
- ・農地を残すために、防災用地指定、地場消費の促進。
- ・避難所の充実(高齢者、乳幼児、障害者の優先所等)。
- ・遊具が充実した公園や防災公園など、多様な用途の公園が充実しているまち。

【にぎわいに関するもの】

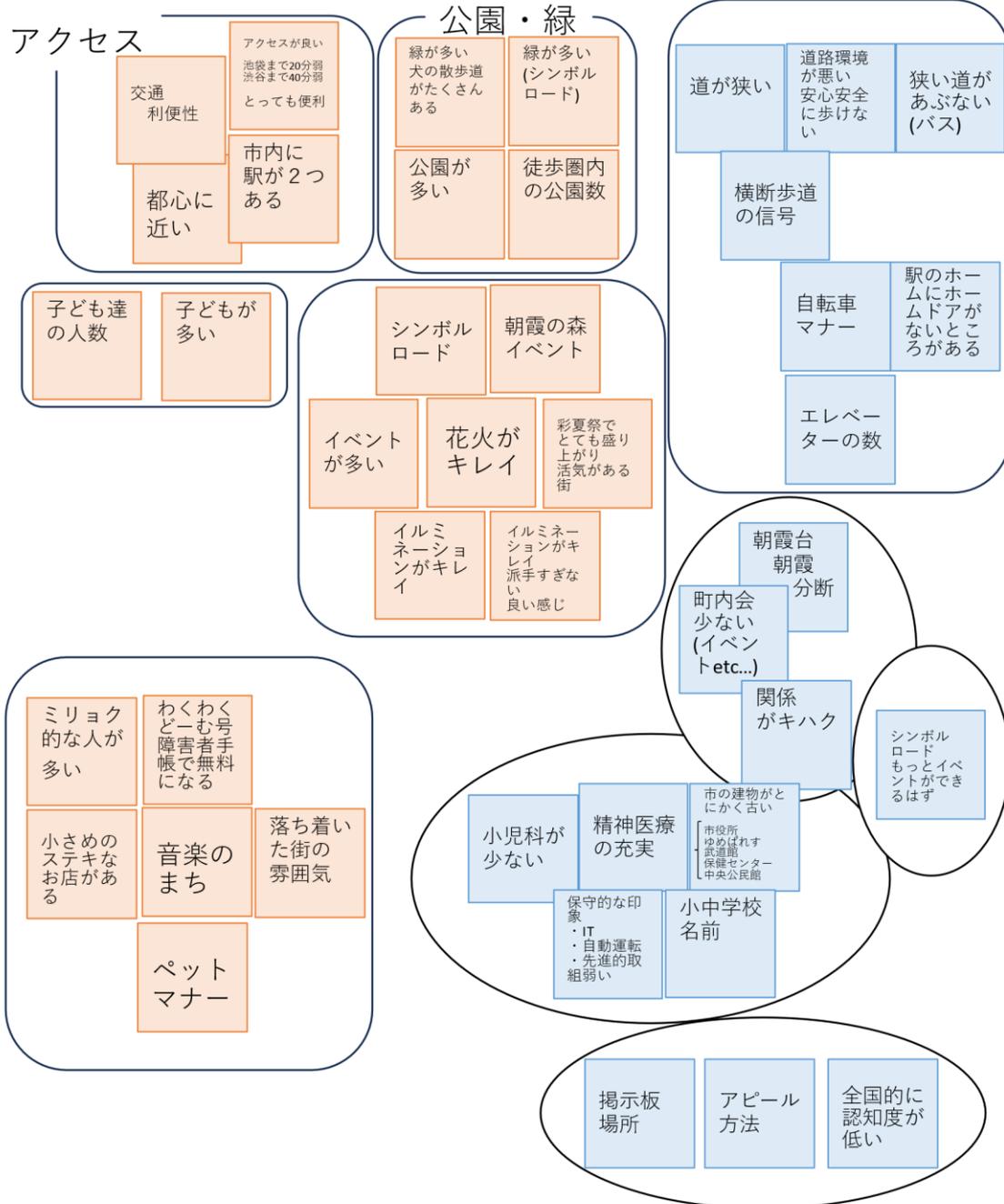
- ・移動スーパーも含め、買い物できる場所の充実。
- ・旧憩いの湯跡地の活用など、市のPRポイントを絞り、魅力の発信・周知。
- ・公契約条例を活用した障害者、母子家庭者、生活保護者等の就労促進。
- ・自治基本条例で地域活動する企業や市民を増やし、少ない職員や予算でも必要な社会政策を増やすことのできるまち。

★グループ2

【2-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

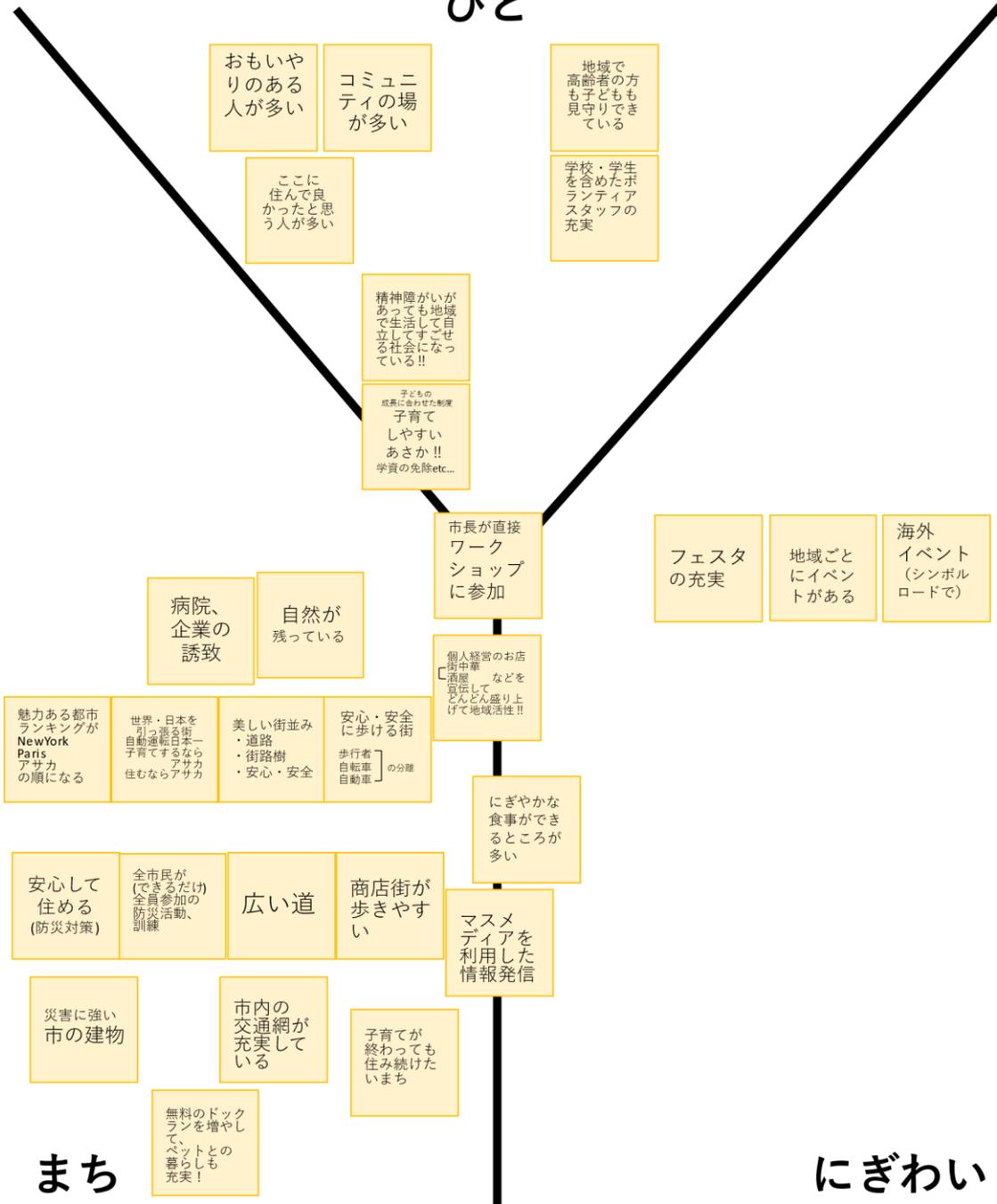
2グループ



【2-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？
ひと

2 グループ



【2-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ① アクセス: 市内に駅が2つあり、都心に近く、交通の便が良い。
- ② 公園・緑: 公園や緑が多く、犬の散歩道がたくさんある。シンボルロードがある。
- ③ 文化・コミュニティ: イベントが多い。イルミネーションが綺麗。彩夏祭が盛り上がる。花火が麗。音楽のまち。小さめの素敵なお店がある。ペットマナーが良い。
- ④ 人: 子どもが多い。魅力的な人が多い。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ① 交通: 道が狭いなど道路環境が悪く安心安全に歩けない。駅にホームドアがない。自転車マナーが悪い。横断歩道に信号がないところがある。
- ② インフラ: 朝霞と朝霞台が分断されている。市の建物が老朽化している。
- ③ コミュニティ: 町内会のイベント等が少ない。地域の関係性が希薄。シンボルロードでのイベントが少ない。保守的な印象がある（IT、自動運転、先進的取組等）。
- ④ 医療: 精神医療が充実していない。小児科が少ない。
- ⑤ 市のPR: 全国的に認知度が低い。アピール方法を検討する必要がある。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・コミュニティの場が多く、地域が子どもも高齢者も見守り、子育てしやすいまち。
- ・学校・学生を含めたボランティアスタッフが充実している。
- ・精神障害があっても地域で自立して生活できるまち。
- ・市長が直接ワークショップに参加する。

【まちに関するもの】

- ・市内の交通網が充実し、道が広く、街路樹があり、安心安全に歩ける美しい街並み。
- ・全市民が参加する防災活動の実施や、市の建物を災害に強いものにし、防災対策の取られた安心して住めるまち。
- ・子育てが終わっても住み続けたいまち。
- ・自然が残っている。
- ・マスメディアを利用した情報発信を行う。魅力ある都市ランキングをあげ、世界・日本を引っ張るまち。病院や企業の誘致。
- ・無料のドッグランを増やして、ペットとの暮らしも充実。

【にぎわいに関するもの】

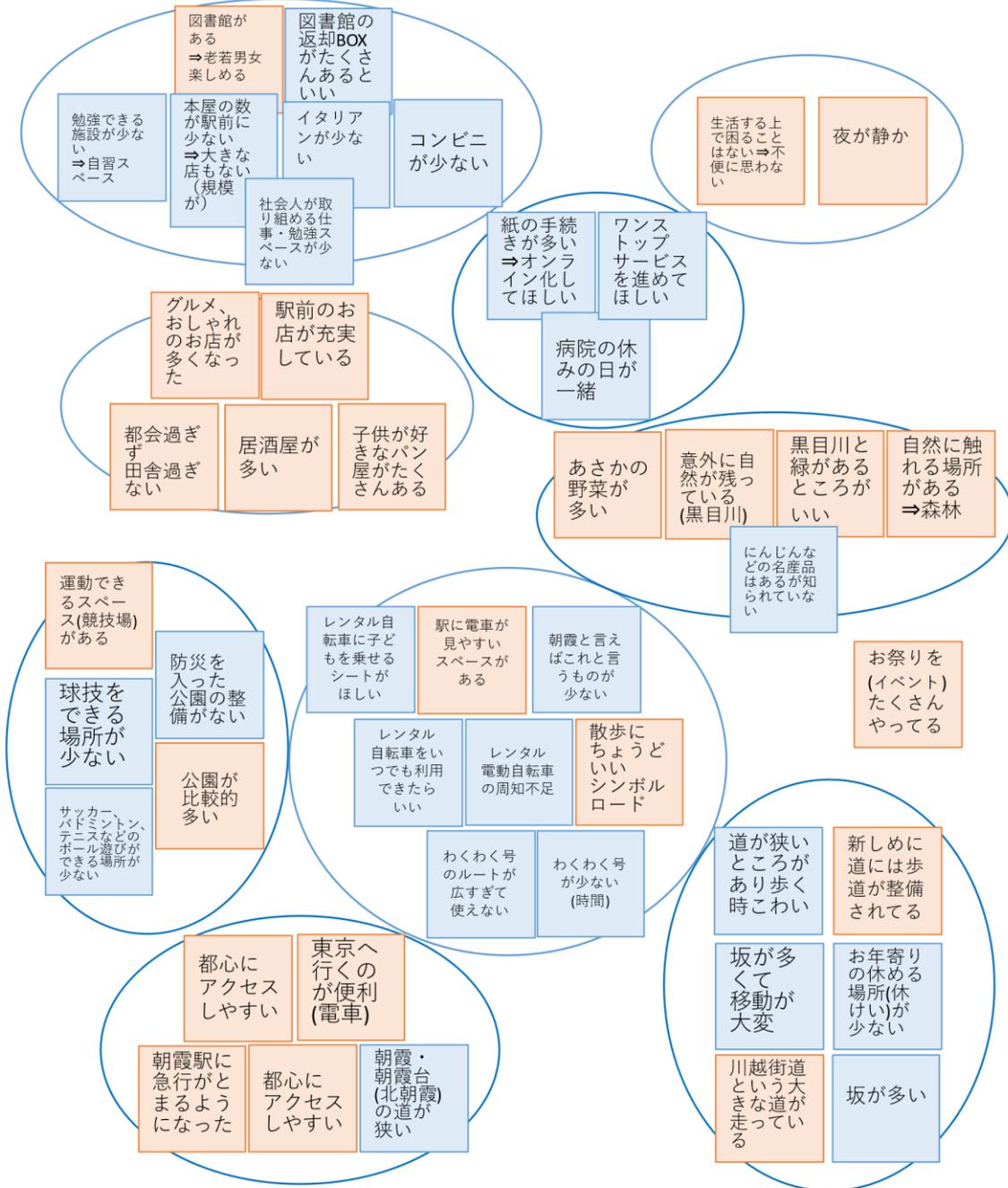
- ・外国人主催の海外イベントをシンボルロードで開催する。
- ・地域ごとにイベントがあるなど、フェスタの充実したまち。
- ・個人経営の飲食店を宣伝し、地域活性化し、賑やかに食事のできる場所が多い。

★グループ3

【3-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

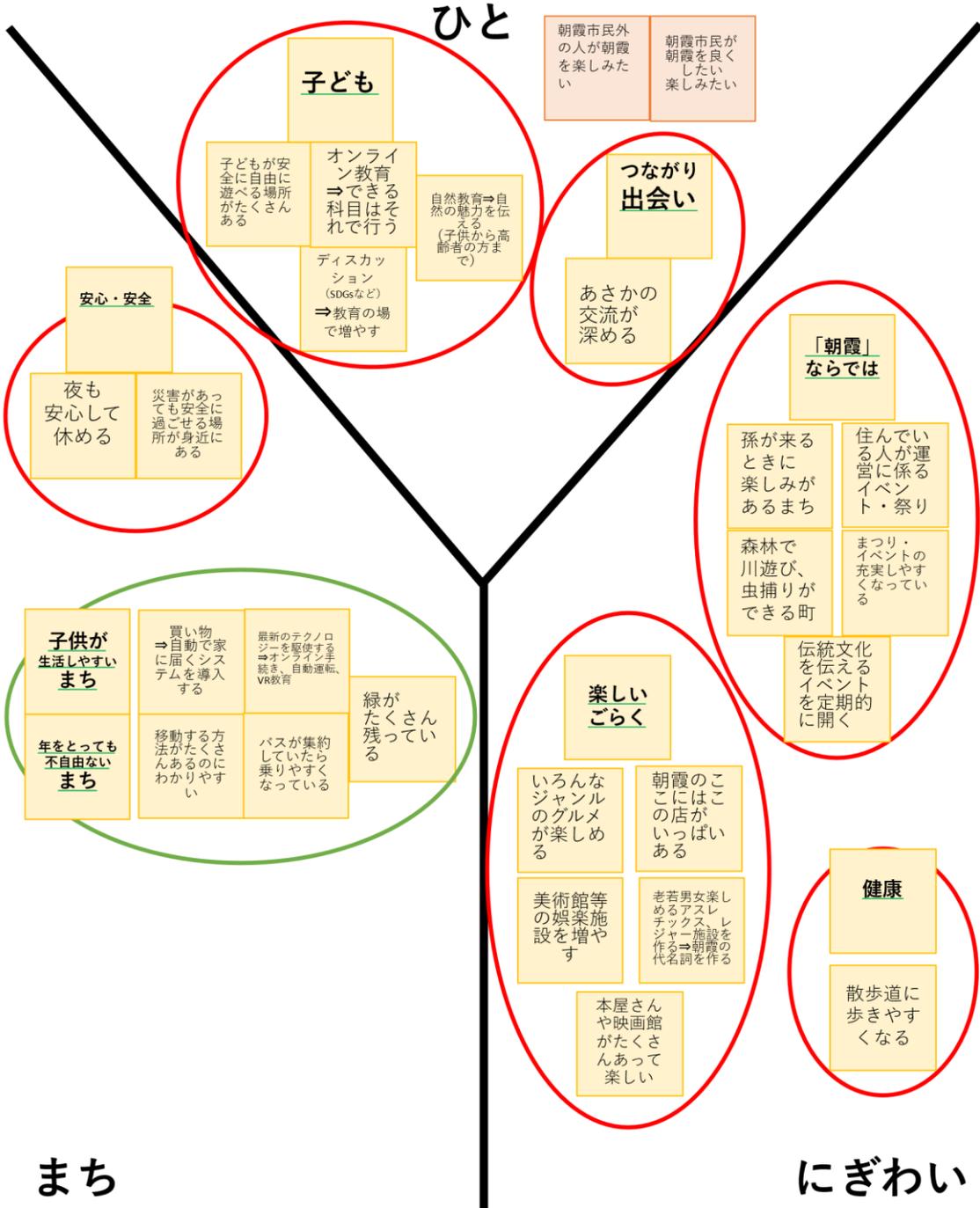
3 グループ



【3-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

3 グループ



【3-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ① アクセス・道路: 都心へのアクセスが良い。朝霞に急行が止まる。新しい道には、歩道が整備されている。川越街道が走っている。
- ② 公園・自然: 公園が多い。黒目川や森など自然が残っている。運動できるスペースがある。シンボルロードが散歩に良い。
- ③ 店舗の充実: 駅前のお店が充実している。グルメ・おしゃれなお店が多い、居酒屋が多い、子どもが好きなパン屋が多い。
- ④ 文化: お祭り等イベントが多い。
- ⑤ 生活: 生活する上で困ることはない。都会過ぎず田舎過ぎず。夜が静か。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ① 交通・移動: 道が狭く歩くのが怖い。坂が多く移動が困難。わくわく号の本数が少なく、ルートが広くて使いにくい。お年寄りの休める場所が少ない。レンタル自転車が利用できないことがある。レンタル電動自転車の周知不足。レンタル自転車に子どもを乗せるシートがほしい。
- ② 施設・病院: 勉強や仕事ができるスペースが少ない。病院の休みの日が同じ。
- ③ 公園: 公園が防災公園として整備されていない。球技ができる場所が少ない。
- ④ 行政手続き: 紙の手続きが多い。ワンストップサービスになっていない。
- ⑤ 市のPR: 朝霞と言えばこれというものが少ない。名産品のにんじんも知られていない。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・朝霞市民が朝霞を楽しみ良くし、朝霞市民以外の人も朝霞を楽しめるまち。
- ・人との出会いやつながりを増やし、交流を深めることができるまち。
- ・子どもが安全に自由に遊べる場所がたくさんある。自然の魅力を伝える教育や、オンライン教育、ディスカッションなど、子どもへの教育を充実させる。

【まちに関するもの】

- ・夜も安心して休め、災害があっても安全に過ごせる場所が身近にあるまち。
- ・子どもが生活しやすく、年をとっても不自由のないまち（緑が多く残っている、買い物したものが自宅に届くシステムの導入、オンライン手続き等最新のテクノロジーの駆使、移動手段のわかりやすさ、集約されたバス等）

【にぎわいに関するもの】

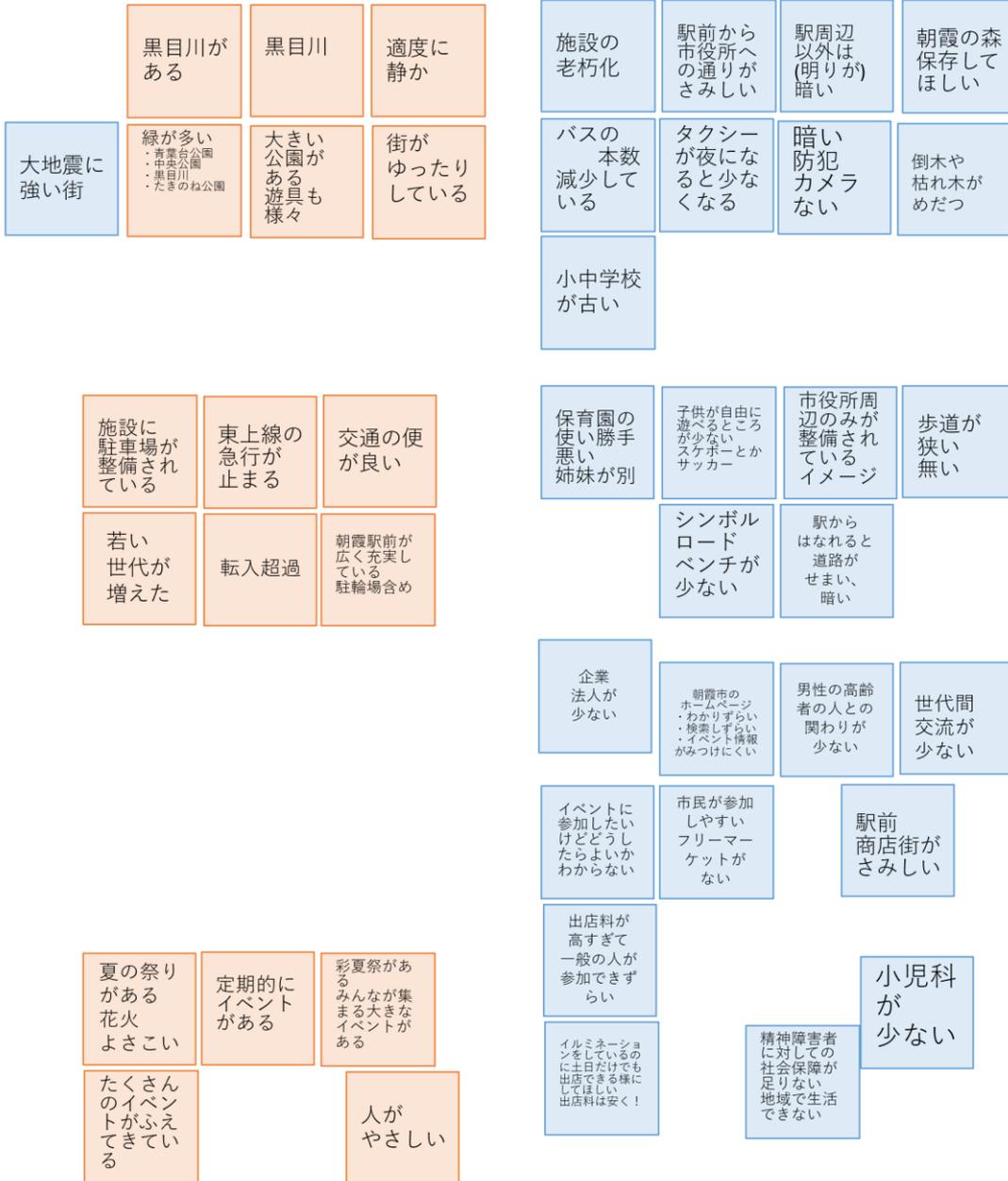
- ・川遊びや森林で虫取りができるまち。孫が来た時に楽しめるまち。
- ・市民が運営に携わる等、祭りやイベントの充実。伝統文化を伝えるイベントの開催。
- ・娯楽のたくさんあるまち（いろんなジャンルのグルメ、老若男女が楽しめるアスレチック・レジャー施設、美術館、本屋、映画館）

★グループ4

【4-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

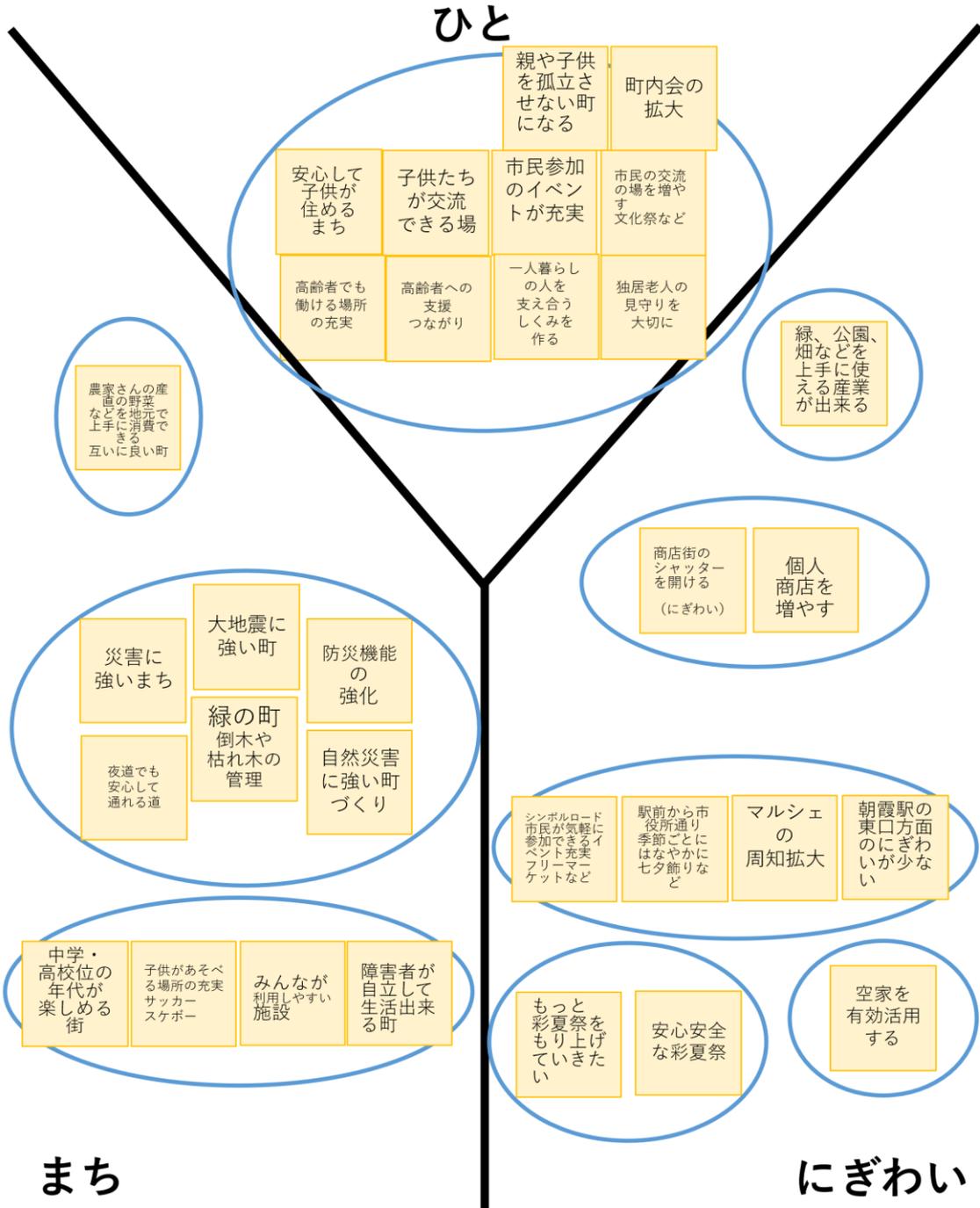
4 グループ



【4-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

4 グループ



【4-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ①公園・自然:黒目川や緑、大きな公園がある。まちが適度に静かでゆったりしている。
- ②アクセス・駅前:交通の便が良い。東上線の急行が止まる。朝霞駅前が充実している。
- ③文化:彩夏祭をはじめとしたイベントが定期的にある。
- ④人:転入超過の状態である。若い世代が増えた。人が優しい。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①街並み:駅周辺以外は道路が狭いし暗い。防犯カメラがない。歩道が狭い・ない。駅前から市役所への通りが寂しい。市役所周辺のみが整備されている。倒木や枯れ木が目立つ。
- ②施設・公園:小中学校や施設の老朽化。子どもが自由に遊べる公園が少ない。
- ③移動:バスの本数が減少している。タクシーが夜になると少ない。
- ④交流:世代間交流が少ない。男性高齢者との関りが少ない。
- ⑤イベント:イベントの出展料が高い。市民が参加しやすいフリーマーケットがない。
- ⑥医療・福祉:小児科が少ない。精神障害者に対するの社会保障が不足している。
- ⑦情報提供:市のホームページがわかりづらい。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・市民参加のイベントが充実して、市民の交流の場が増える。
- ・親や子どもを孤立させず、安心して子どもが住め、交流できる場のあるまち。
- ・特に一人暮らしの高齢者を見守り、支え合う仕組みをつくる。
- ・高齢者でも働ける場所の充実。

【まちに関するもの】

- ・防災機能を強化し、自然災害に強いまち。
- ・倒木や枯れ木の管理がされている緑のまち。
- ・子どもが遊べる(サッカーやスケボー)場所が充実し、中高生も楽しめるまち。
- ・みんなが利用しやすい施設がある。
- ・夜でも安心して帰れる道。
- ・障害者が自立して生活できるまち。
- ・農家の産直野菜を地元で消費できる地産地消のまち。

【にぎわいに関するもの】

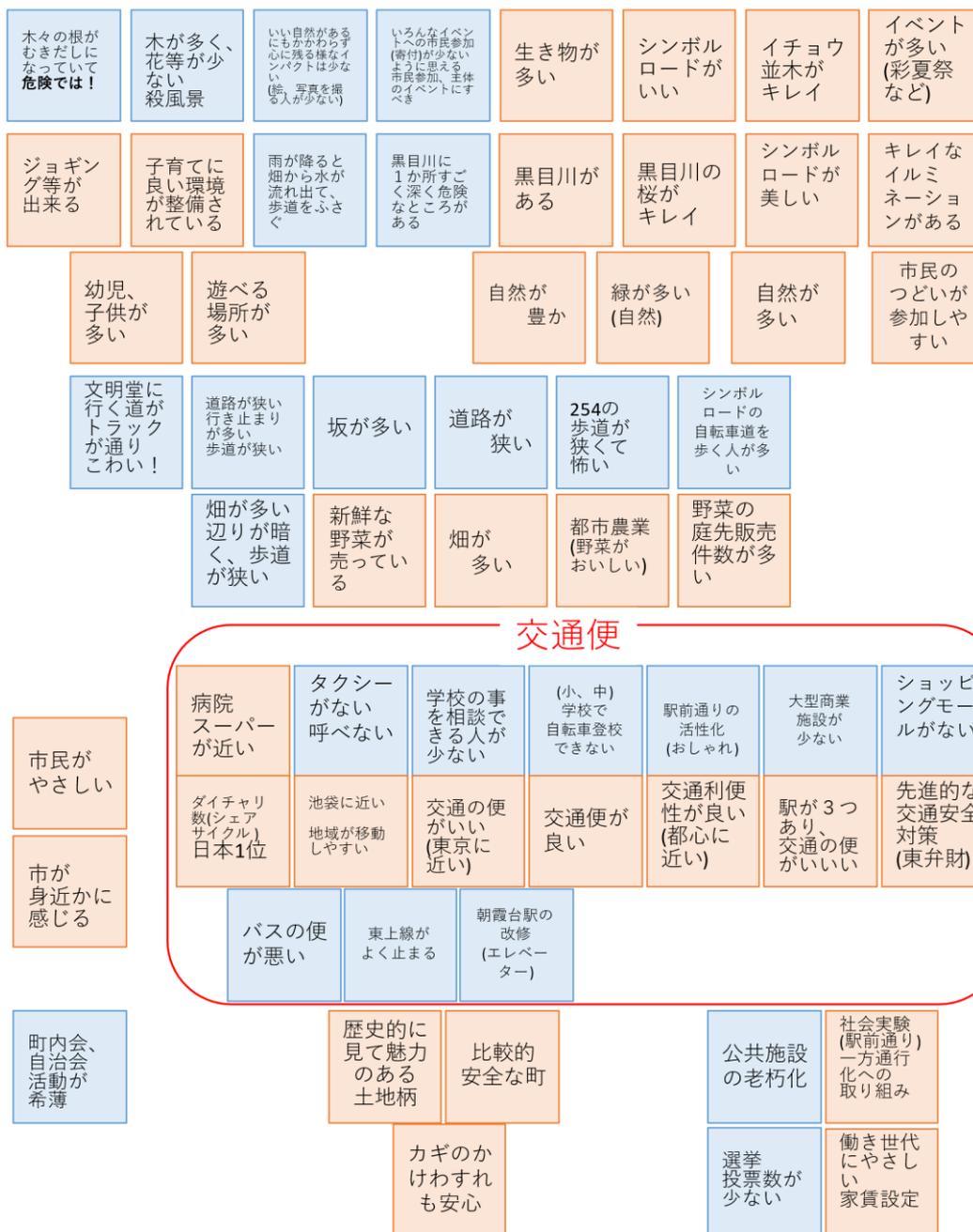
- ・緑、公園、畑などを上手に使える産業ができる。
- ・彩夏祭をより盛り上げる。
- ・個人商店を増やす。朝霞駅東口方面の賑わいを増やす。シンボルロードでイベントの充実。
- ・空き家を有効活用する。

★グループ5

【5-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

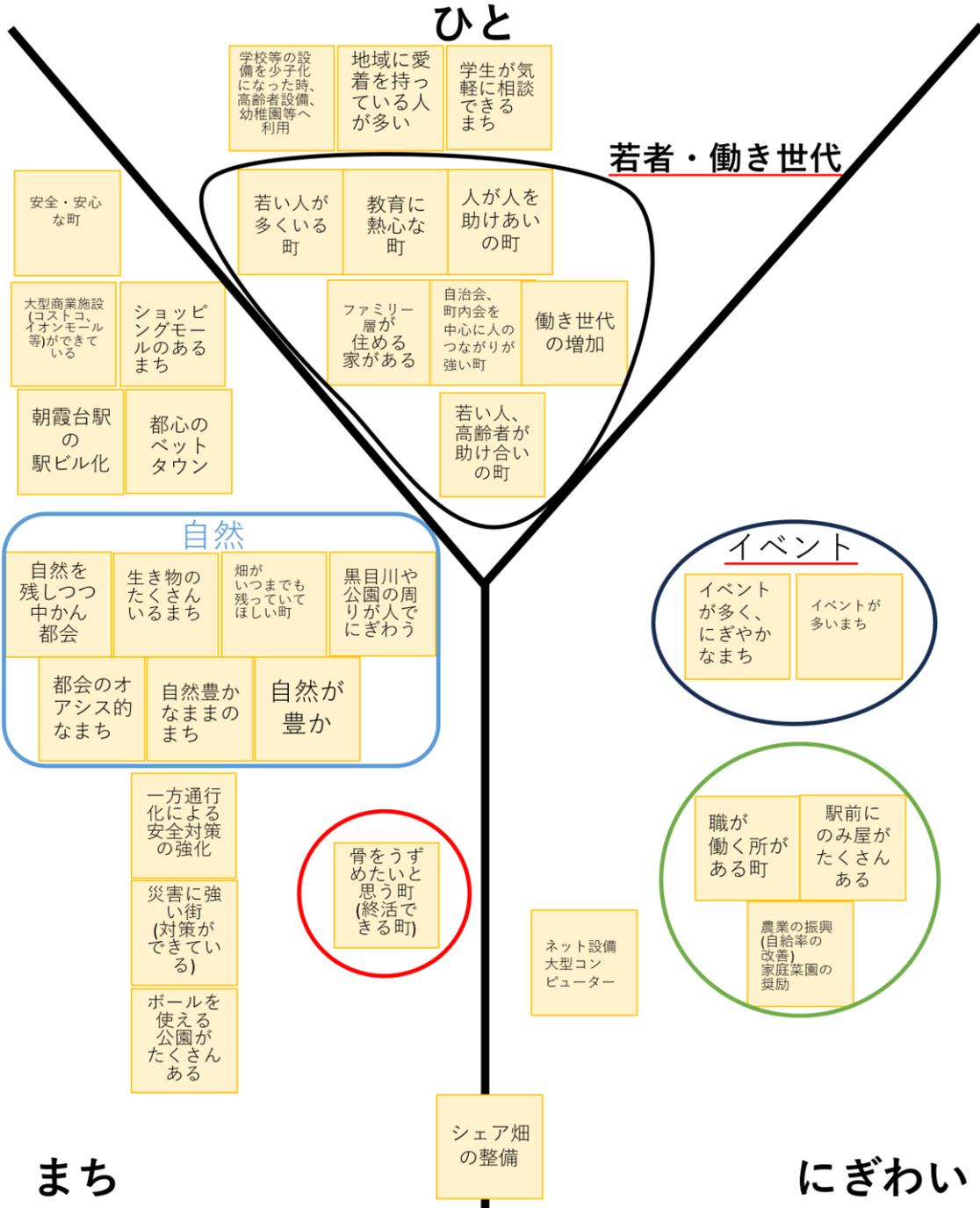
5 グループ



【5-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

5 グループ



【5-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ①公園・自然: 黒目川やイチヨウ並木があり、生き物も多く、自然が豊か。遊べる場所が多い。子育てに良い環境が整備されている。シンボルロードが良い。
- ②アクセス・移動: 交通の便が良い。病院やスーパーが近い。シェアサイクル数日本1位。
- ③農業: 新鮮でおいしい野菜が販売されている。畑が多い。野菜の庭先販売件数が多い。
- ④イベント: 彩夏祭やイルミネーションがある。
- ⑤人・コミュニティ: 市民が優しい。市が身近に感じる。
- ⑥その他: 比較的安全なまち。働き世代に優しい家賃設定。駅前通り一方通行化への取組。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①交通・道路・移動: 道路や歩道が狭い。坂が多い。畑が多く辺りが暗い。電車がよく止まる。バスの便が悪い。タクシーがない。小中学校に自転車登校できない。
- ②公共・民間施設: 公共施設の老朽化。ショッピングモール/大型商業施設がない。
- ③自然: 木々の根がむき出しになっていて危ない。木が多く花が少なく殺風景。自然はあるものの心に残るようなインパクトが少ない。雨が降ると畑から水が流れ出て歩道をふさいでいる。
- ④イベント: イベントへの市民参加が少ない。市民主体のイベントにするべき。
- ⑤その他: 町内会・自治会活動が希薄。選挙の投票数が少ない。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・自治会、町内会を中心に人のつながりが強いまち。若い人、高齢者が助け合い、地域に愛着を持っている人が多いまち。
- ・若い人、働き世代の多いまち。ファミリー層が住める家がある。
- ・教育に熱心。学生が気軽に相談できるまち。

【まちに関するもの】

- ・ボールで遊べる公園がたくさんある。
- ・自然豊かなままで、黒目川や公園の周りで人がにぎわうまち。
- ・災害に強いまち。一方通行化による安全対策の強化。
- ・大型商業施設ができたり、朝霞台駅が駅ビル化したりする。
- ・廃校になった学校等の設備を高齢者設備や幼稚園等へ利用する。
- ・死ぬまで暮らしたいと思えるまち。終活できるまち。

【にぎわいに関するもの】

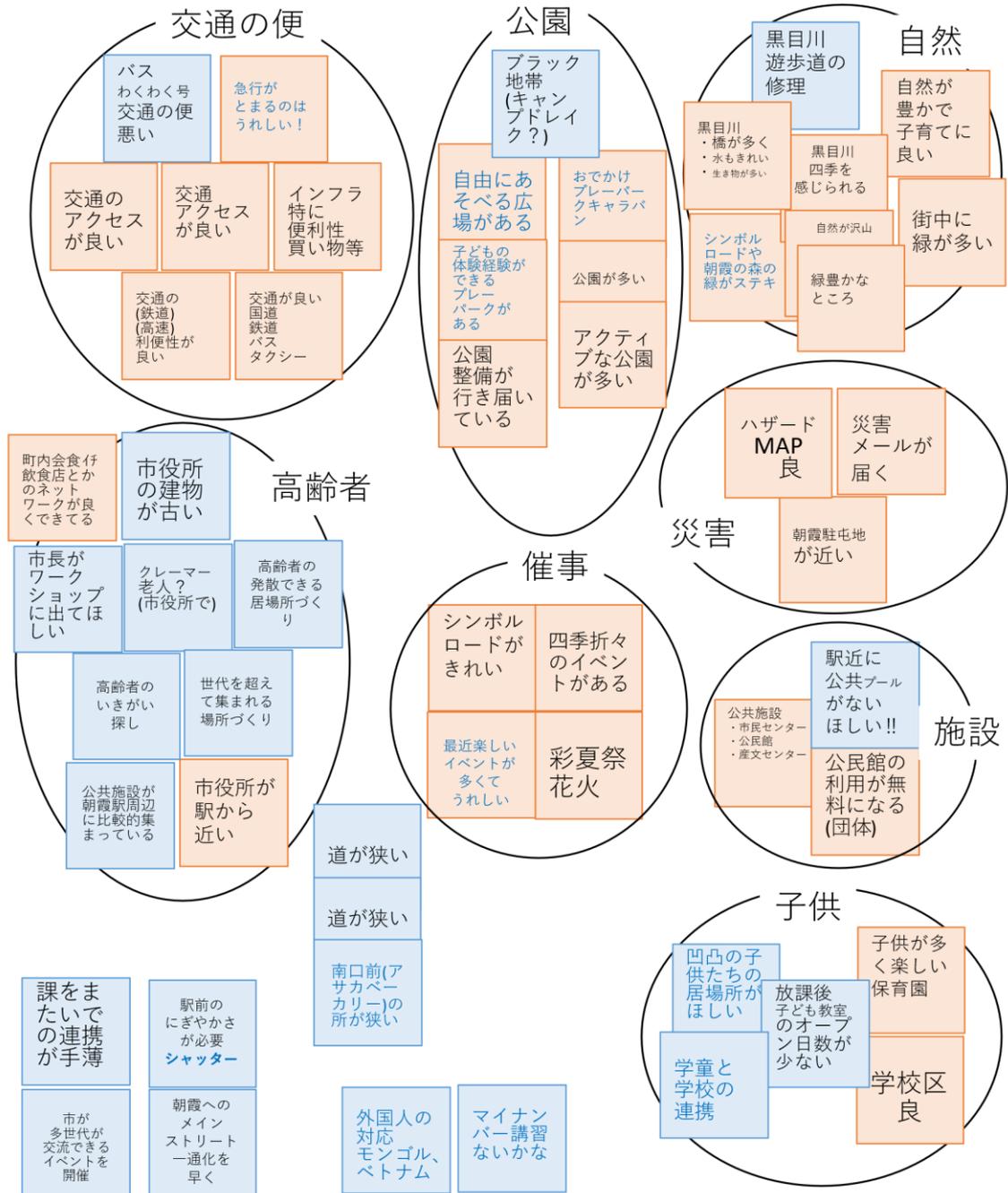
- ・イベントが多く賑やかなまち。駅前に飲み屋がたくさんあるまち。
- ・働く場があるまち。
- ・家庭菜園を奨励するなど、農業の盛んなまち。シェア畑の整備。

★グループ6

【6-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

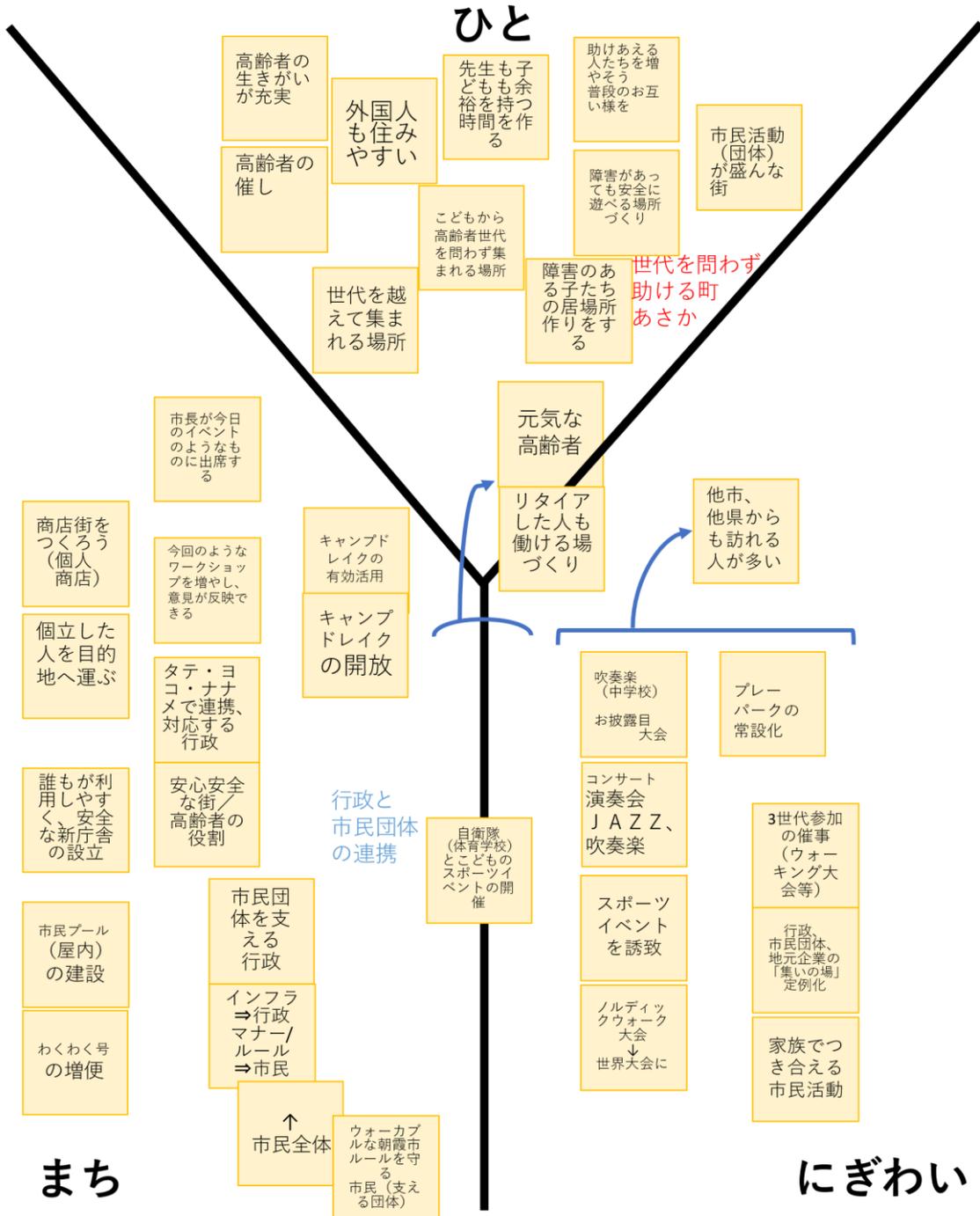
6 グループ



【6-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

6 グループ



【6-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ①公園・自然:自由に遊べる広場がある。子どもが体験できるプレーパークがある。公園が多い。公園整備が行き届いている。黒目川など自然が豊かで子育てに良い。街中に緑が多い。
- ②交通の便:交通アクセスが良い(国道、鉄道、バス、タクシー)。急行が止まる。
- ③イベント:四季折々のイベントがある。彩夏祭の花火。シンボルロードが綺麗。
- ④災害:ハザードマップが良い。災害メールが届く。朝霞駐屯地が近い。
- ⑤子ども:子どもが多く、楽しい保育園が多い。
- ⑥施設:公民館の団体利用が無料。市役所が駅から近い。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①施設・インフラ:公共施設が朝霞駅周辺に集まっている。市役所の建物の老朽化。駅前が賑わっていない。
- ②交通・道路:わくわく号の交通の便が悪い。道が狭い。特に朝霞駅南口前。黒目川の遊歩道の修理。朝霞へのメインストリート一方通行化が実施できていない。
- ③居場所づくり:高齢者や多世代が交流できるイベント・居場所づくり。高齢者の生き甲斐探し。
- ④子ども:特別な配慮の必要な子ども達の居場所がない。学童と学校の連携不足。放課後子ども教室のオープン日数が少ない。
- ⑤その他:課をまたいでの連携が手薄。外国人の対応。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・世代を超えて集まれる場所がある。障害のある子ども達が安全に遊べる居場所がある。
- ・高齢者への催しものがあるなど、高齢者が生きがいをもって元気に暮らせるまち。
- ・市民活動が盛んで、助け合える人たちを増やす。
- ・外国人も住みやすいまち。

【まちに関するもの】

- ・商店街を作る。安全な新庁舎の設立。屋内市民プールの建設。キャンプドレイクの有効活用。
- ・高齢者がリタイア後も働ける場づくり等、高齢者の役割があるまち。
- ・縦・横・斜めで連携・対応する行政。市民の意見を聞くワークショップ(市長も出席)を増やす。市民団体を支える行政。

【にぎわいに関するもの】

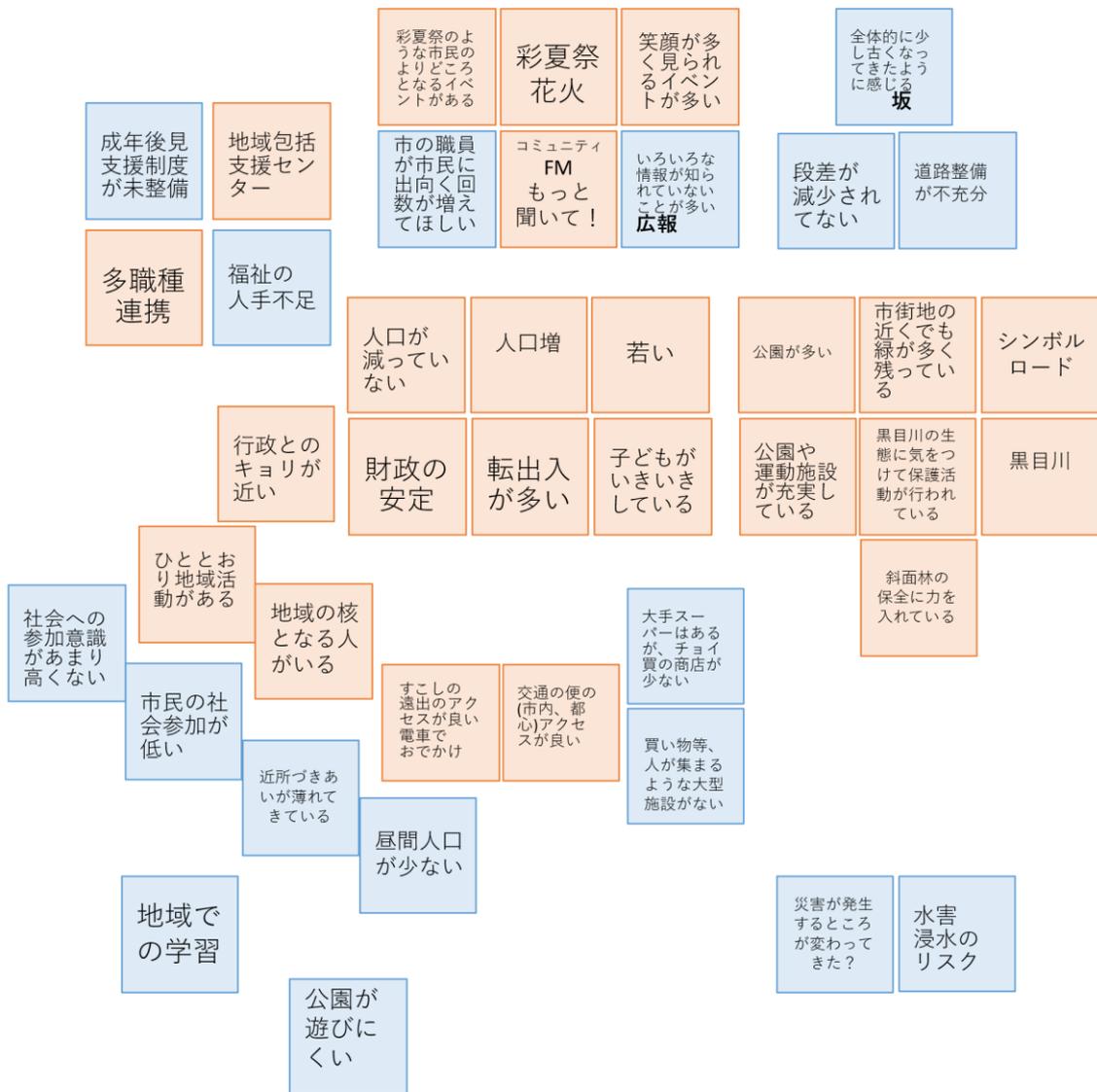
- ・他市、他県からも人が訪れるイベントの開催(吹奏楽お披露目会、コンサート、スポーツイベント、ノルディックウォーク大会、プレーパークの常設化)
- ・3世代参加のイベントの実施。行政、市民団体、地元企業の集いの場の定例化。家族で参加できる市民活動の実施。自衛隊と子どものスポーツイベントの開催。

★グループ7

【7-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

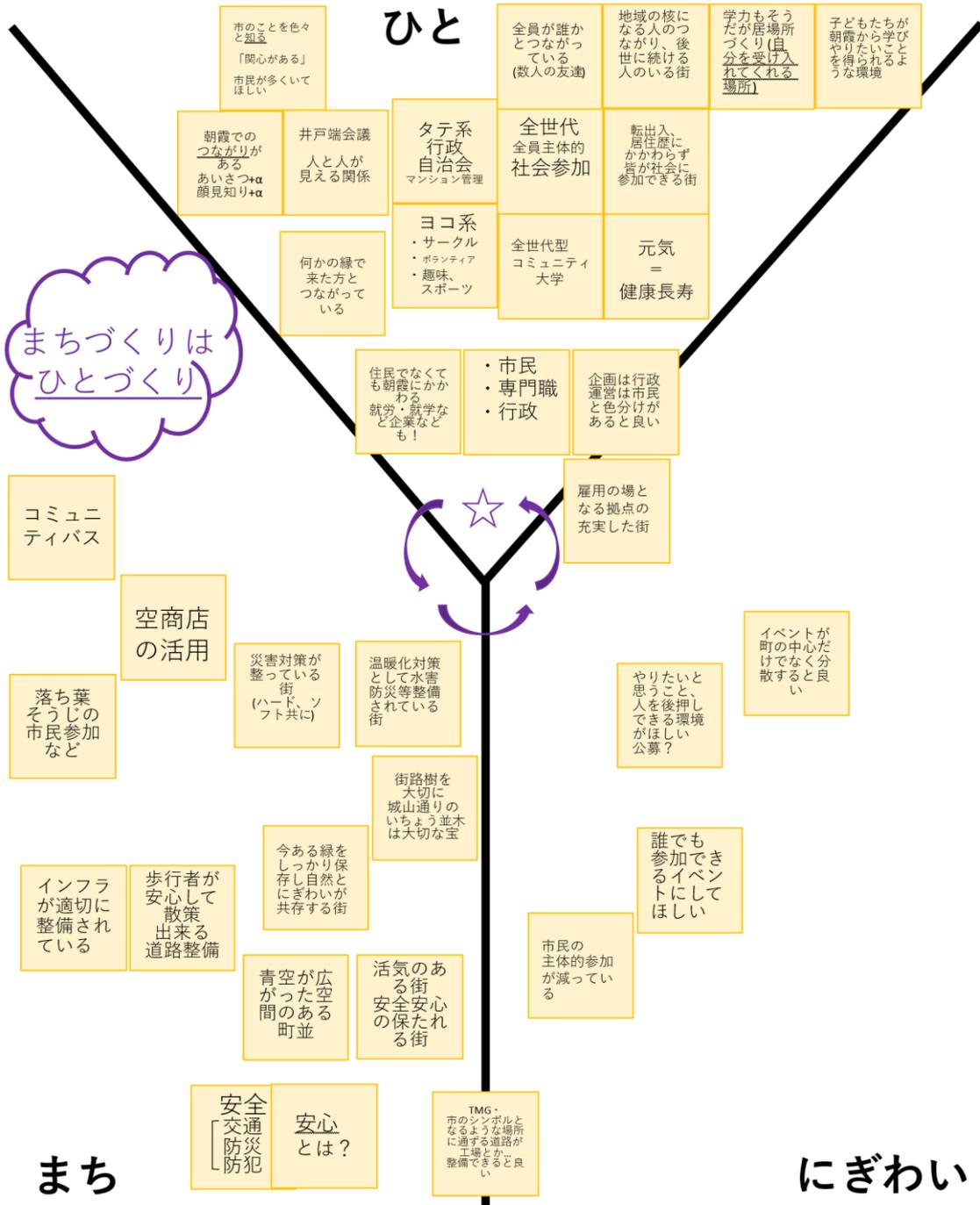
7 グループ



【7-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

7グループ



【7-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ①公園・自然:公園や運動施設が充実している。市街地でも緑が多く残っている。黒目川があり、生態に気を付けて保護活動が行われている。斜面林の保全に力を入れている。
- ②イベント:彩夏祭のような市民のよりどころとなるイベントがある。花火がある。
- ③人口・市民:人口が増えている。転出入が多い。若い。子どもが生き生きしている。
- ④行政:行政との距離が近い。財政が安定している。多職種連携が取れている。
- ⑤地域:地域活動がある。地域の核となる人がいる。
- ⑥交通の便:交通の便がいい(市内・都心まで)。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①道路:道路整備が不十分(段差が減少されていない。古くなってきてい坂。)
- ②行政:市の職員が市民に出向く回数が少ない、広報が不十分、成年後見支援制度が未整備。
- ③地域:近所付き合いが薄れてきている。市民の社会参加が低い/意識が低い。
- ④公園:公園が遊びにくい。
- ⑤災害:水害・浸水のリスクがある。
- ⑥その他:昼間の人口が少ない。大型施設がない。福祉の人出不足。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・全世代の全員が誰かとつながりがあり、人と人が見える関係にあり、市民による主体的な社会参加の盛んなまち。地域の核になる人のつながりがある。落ち葉掃除の市民参加など。
- ・行政や自治会などのタテ系のつながりと、サークル、ボランティア、趣味、スポーツなどヨコ系のつながりがある。
- ・自分を受け入れてくれる居場所があるまち。
- ・子ども達が朝霞から学びやりたいことが得られるような環境がある。
- ・企画は行政で、運営は市民が行うなど、連携できるまち。
- ・雇用の場となる拠点の充実したまち。

【まちに関するもの】

- ・災害対策が整っており、道路やインフラが適切に整備され、安心安全なまち。
- ・今ある緑・街路樹を保存し、自然とにぎわいが共存するまち。青空が広がった空間のあるまち。
- ・空き商店が活用される。活気のあるまち。
- ・朝霞 TMG や市のシンボルとなるような場所に通ずる道路が整備される。

【にぎわいに関するもの】

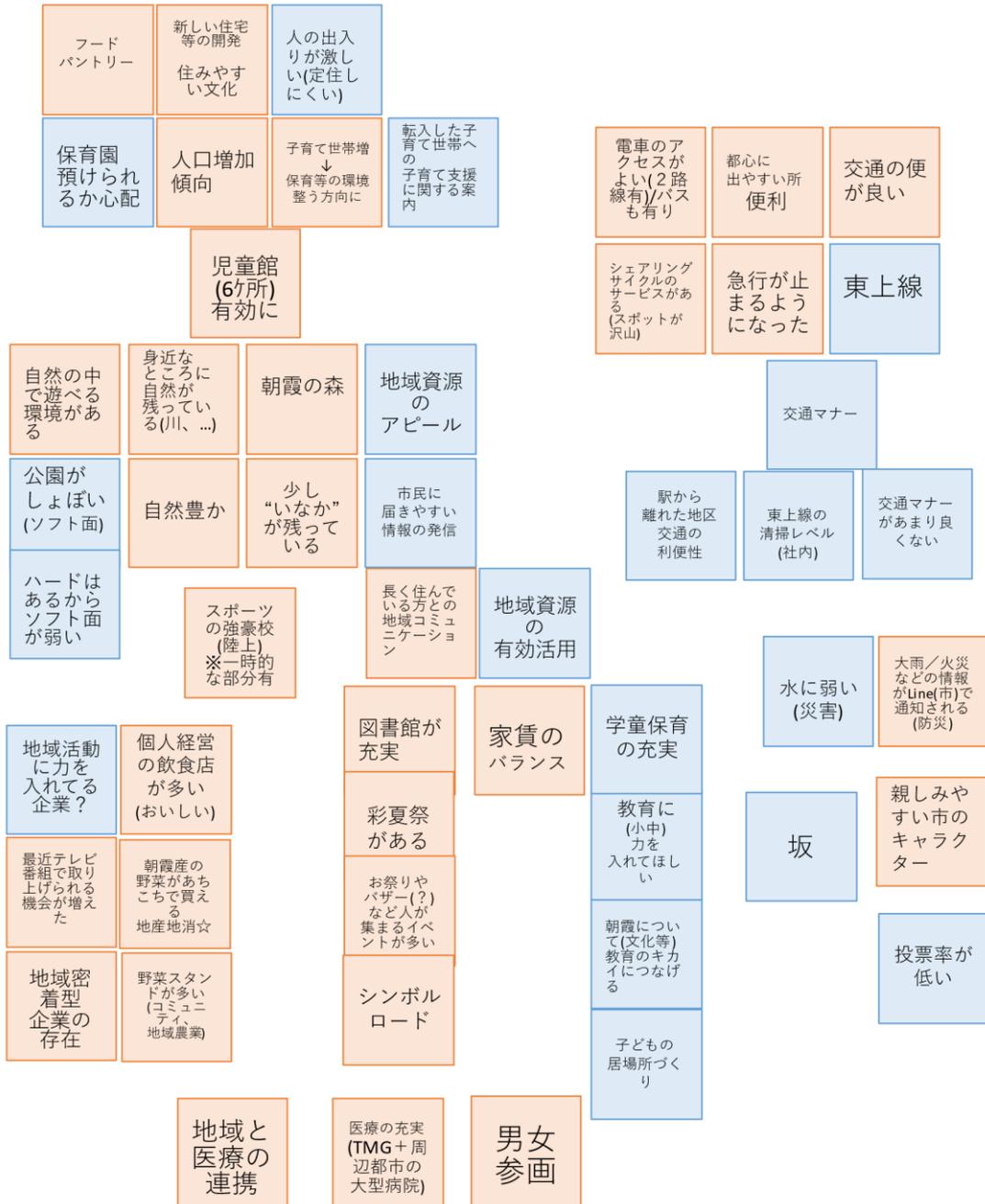
- ・イベントに誰でも参加でき、市の中心外にも分散されて開催される。市民の主体的参加がある。
- ・やりたいと思うこと・人を後押しできる環境。

★グループ9

【9-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

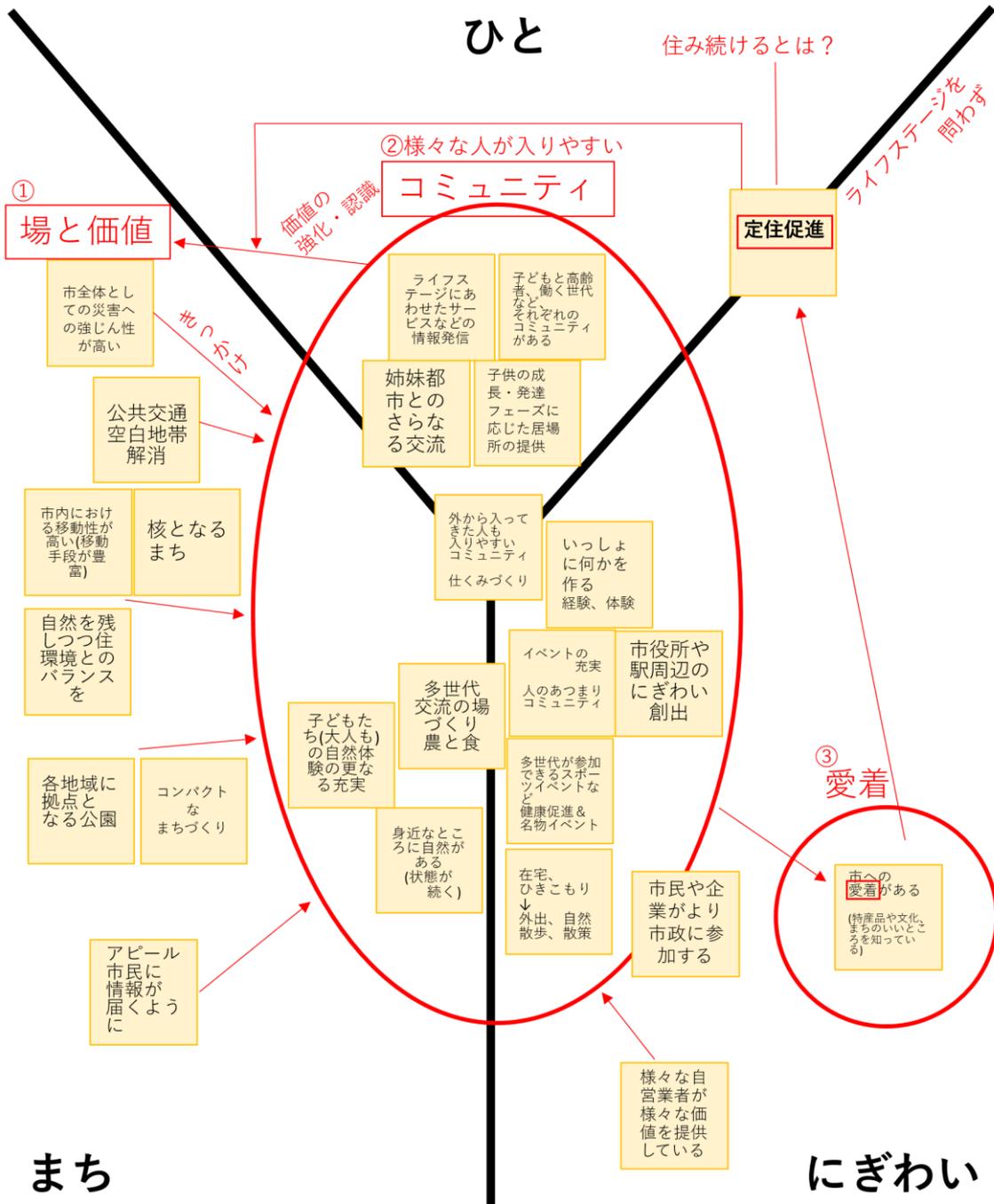
9 グループ



【9-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

9 グループ



【9-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ①交通・移動: 交通の便が良い。急行が止まる。2路線ある。シェアサイクルのサービスがある。
- ②自然: 身近なところに自然が残っている。自然の中で遊べる環境がある。朝霞の森がある。
- ③イベント: 彩夏祭などの祭りやバザーなど人が集まるイベントが多い。シンボルロードがある。
- ④人口・住宅: 人口・子育て世帯が増えている。家賃のバランスが良い。
- ⑤行政・施設: 親しみやすい市キャラクター。防災情報がLINEで通知。図書館や児童館が充実。
- ⑥医療: 医療が充実している。地域と医療の連携が取れている。
- ⑦地域産業: 地域密着型の企業がある。朝霞産の野菜が買える。野菜スタンドが多い。
- ⑧その他: スポーツ強豪校がある。個人経営の飲食店が多い。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①交通・道路: 駅から離れた地区の交通の利便性は良くない。交通マナーが良くない。坂が多い。
- ②保育・教育・子ども: 保育園に預けられるか心配。学童保育が充実していない。小中の教育に力を入れてほしい。朝霞について教育する機会が不足している。子どもの居場所が必要。
- ③情報提供・発信: 市民に届きやすい情報の発信がなされていない。地域資源のアピール不足。転入した子育て世帯への子育て支援に関する案内不足。
- ④公園: ハード面はあるが、ソフト面が弱い。
- ⑤その他: 人の出入りが多く定住しにくい。水害に弱い。投票率が低い。地域資源の有効活用。

(3) 未来の朝霞市

場と価値を提供し、様々な人が入りやすいコミュニティがあり、市に愛着が生まれ、定住を目指す。

【ひとに関するもの】

- ・子ども・働き世代・高齢者のそれぞれにコミュニティ(外から入ってきた人も入りやすい)がある。
- ・子どもの成長・発達段階に応じた居場所がある。
- ・姉妹都市とのさらなる交流がある。

【まちに関するもの】

- ・公共交通の空白地帯を解消し、市内における移動手段が豊富にある。コンパクトなまちづくり。
- ・身近に自然を残しつつ、住環境とのバランスが取れている。自然体験を更に充実させる。
- ・災害への強靭性が高い。
- ・市民に情報が届くようにアピールする。

【にぎわいに関するもの】

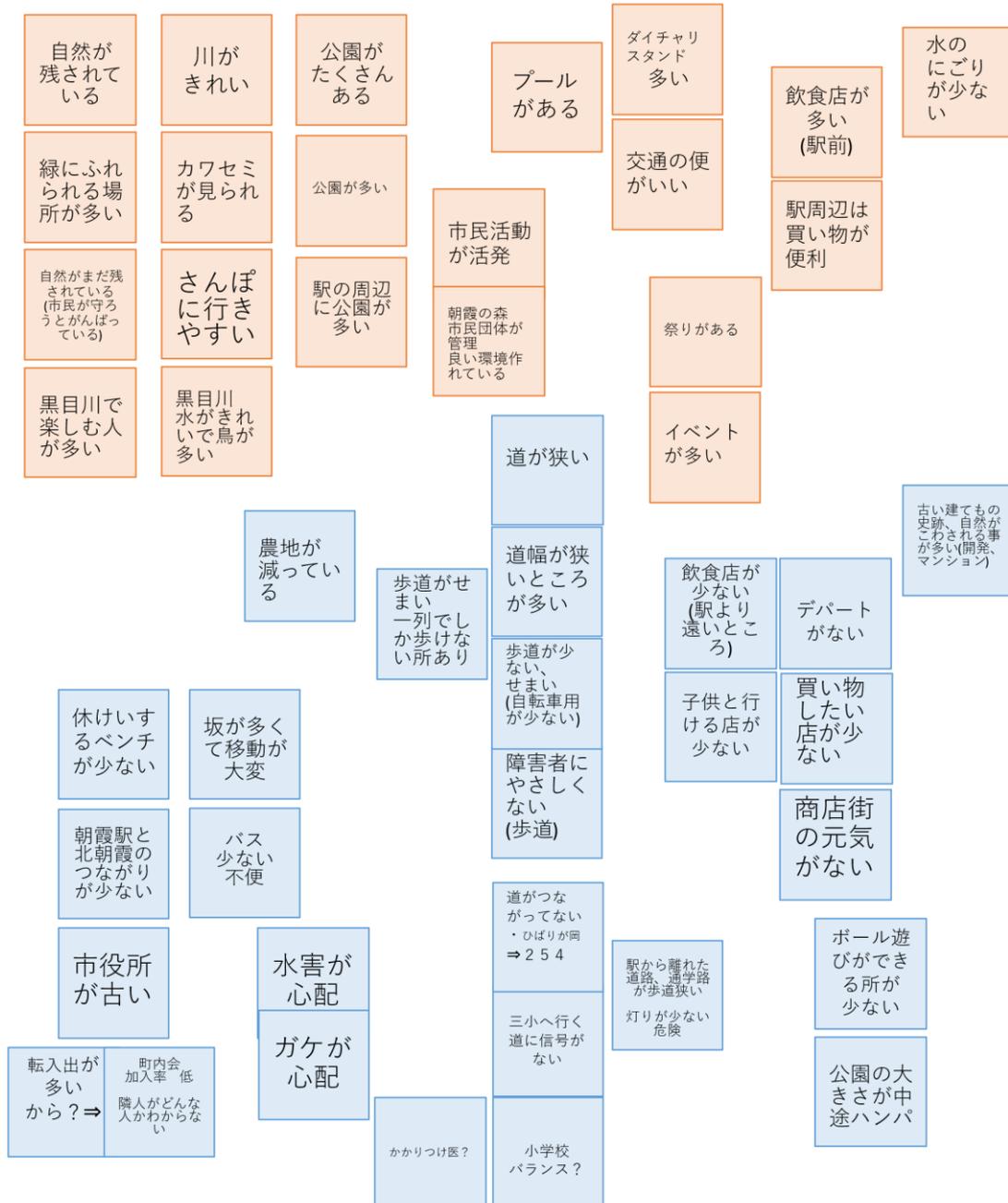
- ・多世代が参加できるスポーツ、健康促進、名物イベントの開催。一緒に何かを作る経験・体験。
- ・市役所や駅周辺のにぎわいの創出。
- ・市民や企業がより市政に参加する。
- ・様々な自営業者が様々な価値を提供する。

★グループ10

【10-1】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ

今の朝霞市のよいと思うところ
改善が必要と思うところ

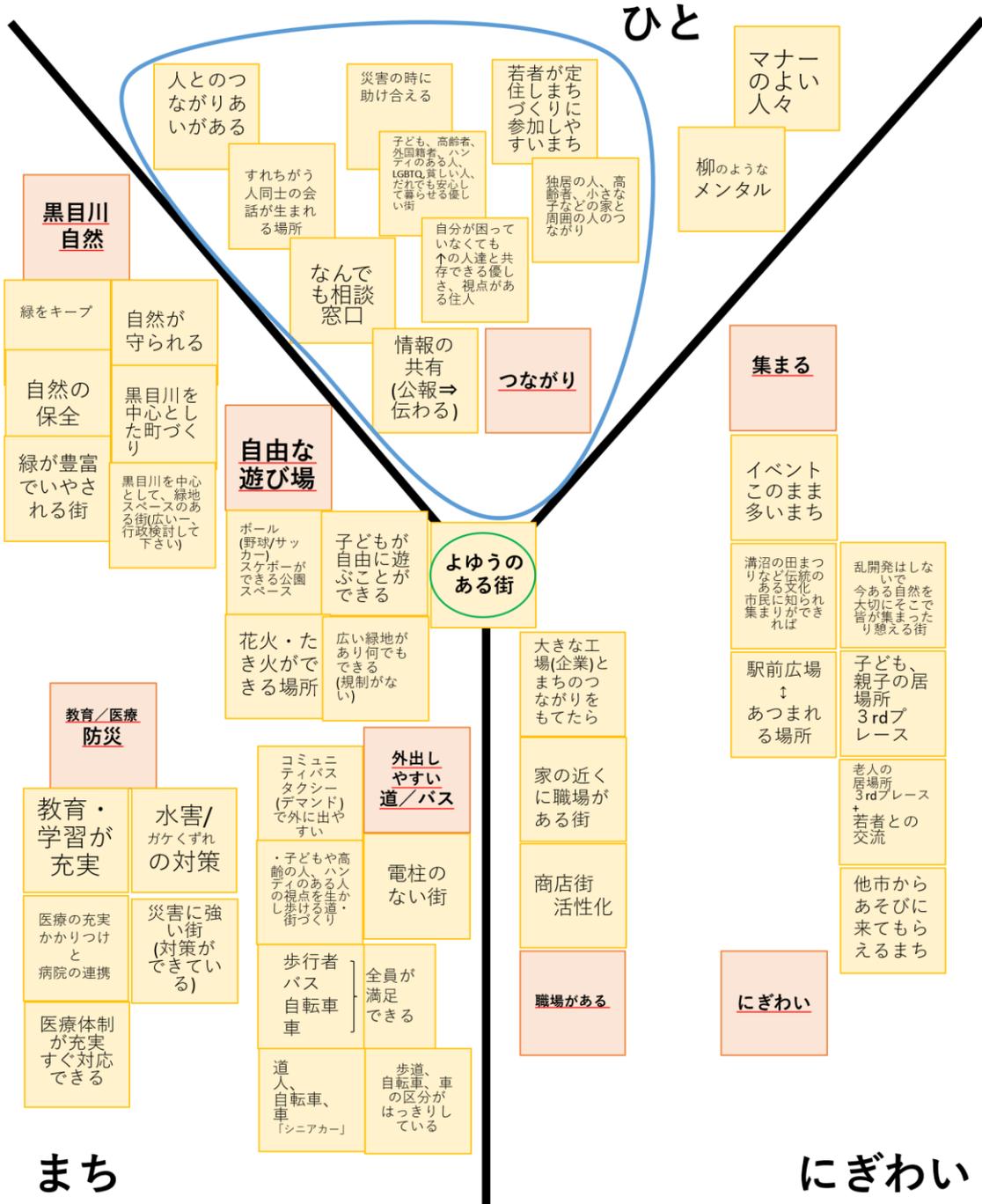
10グループ



【10-2】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？

10グループ



【10-3】話し合いの要点

(1) 今の朝霞市のよいと思うところ

- ①自然・公園:公園が多い。黒目川が綺麗で鳥が多い。自然が残されている。
- ②イベント:お祭り、イベントが多い。
- ③交通・移動:交通の便がいい。ダイチャリスタンドが多い。
- ④駅前の利便性:駅前に飲食店が多い。駅周辺は買い物が便利。
- ⑤その他:プールがある。市民活動が活発。

(2) 今の朝霞市の改善が必要と思うところ

- ①交通・道路:通学路を含め、道・歩道が狭い。道がつながっていない。信号がない。坂が多い。
バスが少なくて不便。道路に明かりが少なく危険。朝霞駅と北朝霞駅のつながりが少ない。
- ②土地:農地が減っている。崖があつて危ない。水害が心配。
- ③インフラ・施設:市役所が古い。古い建物史跡が開発などで壊されることが多い。
- ④店舗:デパートがない。駅より遠いところに飲食店が少ない。子どもといける店が少ない。商店街が元気がない。買い物したい店が少ない。
- ⑤地域:町内会の加入率が低く、隣人がどんな人かわからない。転出入が多い。
- ⑥公園:ボール遊びができる所が少ない。公園の大きさが中途半端。

(3) 未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

- ・若者が定住し、まちづくりに参加しやすいまち。
- ・すれ違う人同士の会話が生まれ、人とのつながりがあるまち。
- ・社会的弱者を含め、誰でも安心して暮らせる優しいまち。自分が困っていなくても、共存できる優しさ・視点のある住人がいる。災害の時に助け合える。

【まちに関するもの】

- ・黒目川を中心として、自然を守り、緑が豊富で癒されるまち。
- ・子どもが自由に遊ぶ(ボール、スケボー、花火)ことができるまち。
- ・子ども、高齢者、障害者の視点で、歩きやすいまち。コミュニティバス等で外出しやすいまち。
- ・災害(特に水害や崖崩れ)に強いまち。
- ・かかりつけ病院との連携等、医療体制の充実。
- ・教育や学習が充実しているまち。

【にぎわいに関するもの】

- ・イベントや集まれる場所が多いまち。伝統文化の伝承や、今の自然を残してそこで憩えるまち。
- ・子ども、親子、高齢者の居場所や高齢者と若者の交流の場がある。
- ・他市から遊びに来てもらえるまち。
- ・大きな工場(企業)とつながりをもつ。家の近くに職場がある。商店街の活性化。

2-3. 当日の様子

写真を掲載します。

3. 総括

まず、「朝霞市のよいところ、改善が必要なところ」を話し合ったところ、各グループで共通して見られた、よいところに関する意見として、都心に近く交通の便がよいこと、公園が多いこと、黒目川や朝霞の森などがあること、彩夏祭をはじめとしたイベントが多いことなどの意見が多く挙げられた。

改善が必要なところに関する意見としては、道幅が狭く歩きにくい、坂道の移動が困難、バス交通の見直し、公共施設の老朽化、自由な遊び場の不足、全国的な認知度が低いことなどが挙げられた。

続いて、「朝霞市の未来」について話し合ったところ、《ひと》については、

- ・多様な交流やコミュニティがある
 - ・若者やファミリー層が住みやすい
 - ・子どもや高齢者、外国人など誰もが住みやすい
- などが挙げられた。

また、《まち》については、

- ・歩きやすい道の整備
- ・災害対策
- ・緑を残す
- ・多様な遊び場
- ・自然との共存

などが挙げられた。

さらに、《にぎわい》については、

- ・買い物や食事ができる場の充実
- ・多様なイベントや市民の主体的関わり
- ・市の魅力発信・PR

などが挙げられた。

総じて、交通利便性、自然の豊かさ、イベントに関する評価は高く、それらを未来に受け継ぎながら、今後は、ひとのつながりや交流によって誰もが住みやすくし、まちをより強く、安全で快適なものとするとともに、市内のにぎわいを増し、市内外に発信していくことが重要と考えられる。

4. 資料

資料① 募集チラシ

あさかの未来を話そう
参加者募集!

【会場】
ゆめばれす
(朝霞市民会館)
新館2階
高砂の間

【日時】
令和6年
1月20日(土)
午後1時30分
～午後5時

【募集人数】
100名程度
★お子様も
一緒にどうぞ

【申込期限】
令和5年
12月25日(月)

市民ワークショップ「あさかの未来を話そう」参加申込書

ふりがな			
氏名			
連絡先	() - ※日中、連絡が取れる電話番号の記載をお願いします(携帯電話可)		
託児 ※希望される方は、 利用人数と年齢を ご記入ください。	(利用人数 人、年齢 歳、 歳) ※託児は1歳～就学前のお子様ご利用できます。 ※別途、当日の持ち物等についてご連絡します。	手話通訳 ※希望される方は○ をつけてください。	必要

内 容

令和8年度(2026年度)から始まる「第6次朝霞市総合計画」を作るため、朝霞市をどんなまちにしていきたいかを参加者の皆さんと一緒に考える市民ワークショップを開催します。
数名ずつのグループに分かれ、意見交換をしながら「朝霞市のよいと思うところ」や「未来の朝霞市」などについて考えます。参加費は無料です。

開催日時・会場

日時 令和6年1月20日(土) 午後1時30分～午後5時

会場 ゆめばれす(朝霞市民会館)新館2階 高砂の間
朝霞市本町1丁目26番1号

応募方法

下記のいずれかの方法でご応募ください。

- ①郵送 裏面の参加申込書に記入し、下記問い合わせ先へ郵送してください。
- ②窓口 裏面の参加申込書に記入し、朝霞市役所政策企画課(3階35番)へお持ちください。
- ③FAX 裏面の参加申込書に記入し、下記問い合わせ先へ送信してください。
- ④Web 右の二次元コードまたは市ホームページから、お申込みフォームへアクセスし、お申込みください。



申込締切：令和5年12月25日(月) ※郵送の場合は必着

- 座席に余裕がある場合は当日参加も可能です。
直接会場へお越しください。

※託児・手話通訳を希望する場合は令和5年12月25日(月)までに
お申込みください。



問い合わせ先

朝霞市役所 市長公室 政策企画課
〒351-8501 朝霞市本町1丁目1番1号
TEL : 048-463-3089(直通)
FAX : 048-467-0770
E-mail : seisaku_kikaku@city.asaka.lg.jp

第6次朝霞市総合計画策定に向けた
人口推計 検討資料
(推計シミュレーション)

令和6年(2024年)3月

朝霞市

【 目 次 】

1	人口推計の目的と論点.....	3
	(1) 人口推計の目的.....	3
	(2) 人口推計の論点.....	3
2	朝霞市人口の動向.....	4
	(1) 総人口.....	4
	(2) 自然動態.....	6
	(3) 社会動態.....	9
3	国（社人研）推計結果の検証.....	11
	(1) 国（社人研）推計の結果.....	11
	(2) 社人研準拠推計の結果.....	12
	(3) 社人研準拠推計結果の検証と独自推計の必要性.....	12
4	朝霞市将来人口の推計（シミュレーション）.....	13
	【人口推計（シミュレーション）の条件設定】.....	13
	【個別結果】.....	15
	(1) ベース推計—現状（過去5年間の傾向）のまま推移した場合.....	15
	(2) 【出生高位×移動高位】推計.....	17
	(3) 【出生低位×移動高位】推計.....	19
	(4) 【出生中位×移動中位】推計.....	21
	(5) 【出生高位×移動中位】推計.....	23
	(6) 【出生低位×移動中位】推計.....	25
	(7) 【出生中位×移動低位】推計.....	27
	(8) 【出生高位×移動低位】推計.....	29
	(9) 【出生低位×移動低位】推計.....	31
	【人口推計（シミュレーション）結果の総括】.....	33
	（参考資料）用語解説.....	36

1 人口推計の目的と論点

(1) 人口推計の目的

本推計は、第6次総合計画の策定にあたり、将来における本市の出生動向や転出入動向を予測しつつ将来人口を推計し、もって、基本構想等に掲げる『将来人口の見通し』を検討することを目的としている。

(2) 人口推計の論点

本推計に先立ち、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）公表の『日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）朝霞市』につき検証したところ、人口の実績値が推計値を既に上回っており、乖離が生じていた。

このため、独自推計を行うこととし、近年における本市の人口動態の趨勢を踏まえ、将来の出生や転出入の動向について複数パターンを設定し、9種のシミュレーションを行っている。

このような背景から、本推計を踏まえた論点を次のとおり想定している。

<人口推計の論点>

①総人口に関する論点

- ア 本市の人口は増加傾向を維持してきたが、近年では鈍化傾向にある。今後、本市の人口はどのような傾向で推移するとみるか。
- イ また、望ましい傾向を実現するために、どのような政策が必要か。出生に重きをおくか、転入促進に重きをおくか、等。

②出生に関する論点

- ア 本市の合計特殊出生率は近年低下傾向にあり、2022年には国と同水準の1.25となっている。今後、本市の合計特殊出生率はどのような傾向で推移するとみるか。
- イ また、望ましい出生率を実現するため、どのような政策・施策が必要か。若者の支援、子育て世帯への支援、子どもの支援等。

③転出入に関する論点

- ア 本市は転入超過の状態にあるが、近年では超過の規模が必ずしも大きくなく、人口増加が鈍化する背景ともなっている。今後、本市の転出入はどのような傾向で推移するとみるか。
- イ また、望ましい転出入の動向を実現するため、どのような政策・施策が必要か。若者の定住促進、子育て世帯の転入促進と転出抑制、等。

2 朝霞市人口の動向

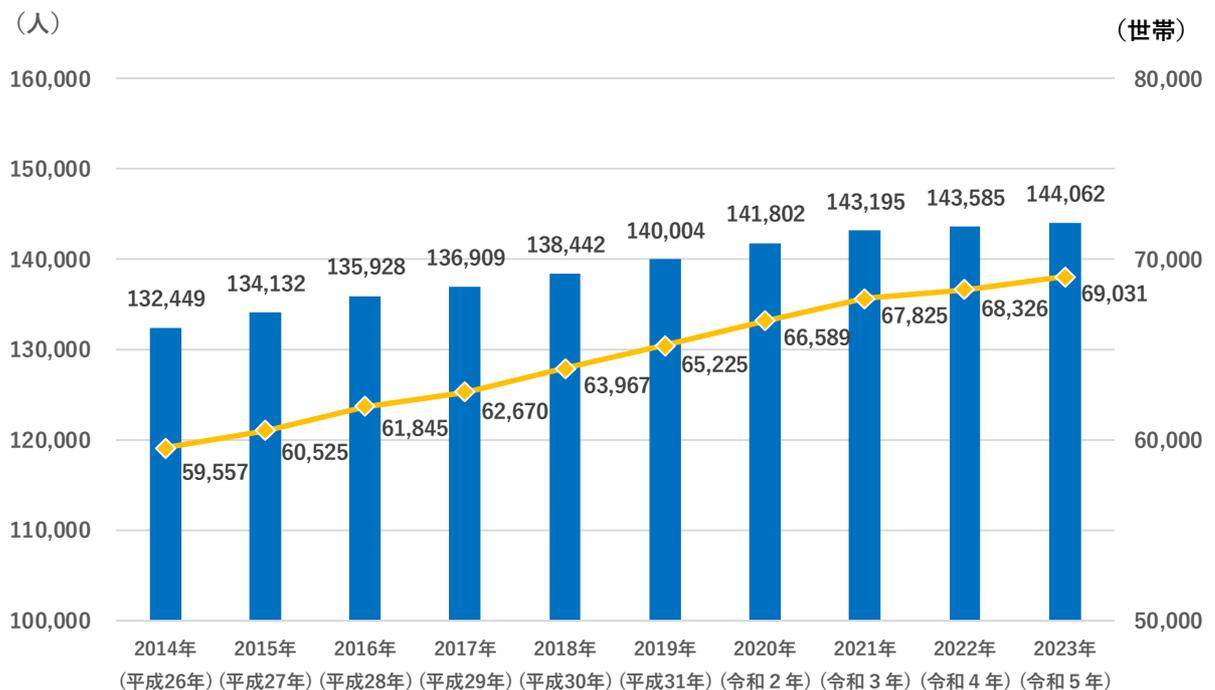
(1) 総人口

①総人口の推移

埼玉県「埼玉県町(丁)字別人口調査結果報告」によれば、本市の総人口は、2014年(平成26年)には132,449人であったものが、2023年(令和5年)には144,062人となっている。

この間、11,613人(8.8%)の増加をみているが、近年、2022年(令和4年)および2023年(令和5年)には対前年増加率が0.3%にとどまっており、本市の人口増加は鈍化傾向にあるとみられる。

一方、世帯数は2014年(平成26年)から2023年(令和5年)の間に9,474世帯(15.9%)の増加をみており、世帯あたり人員の減少が進んでいることがわかる。

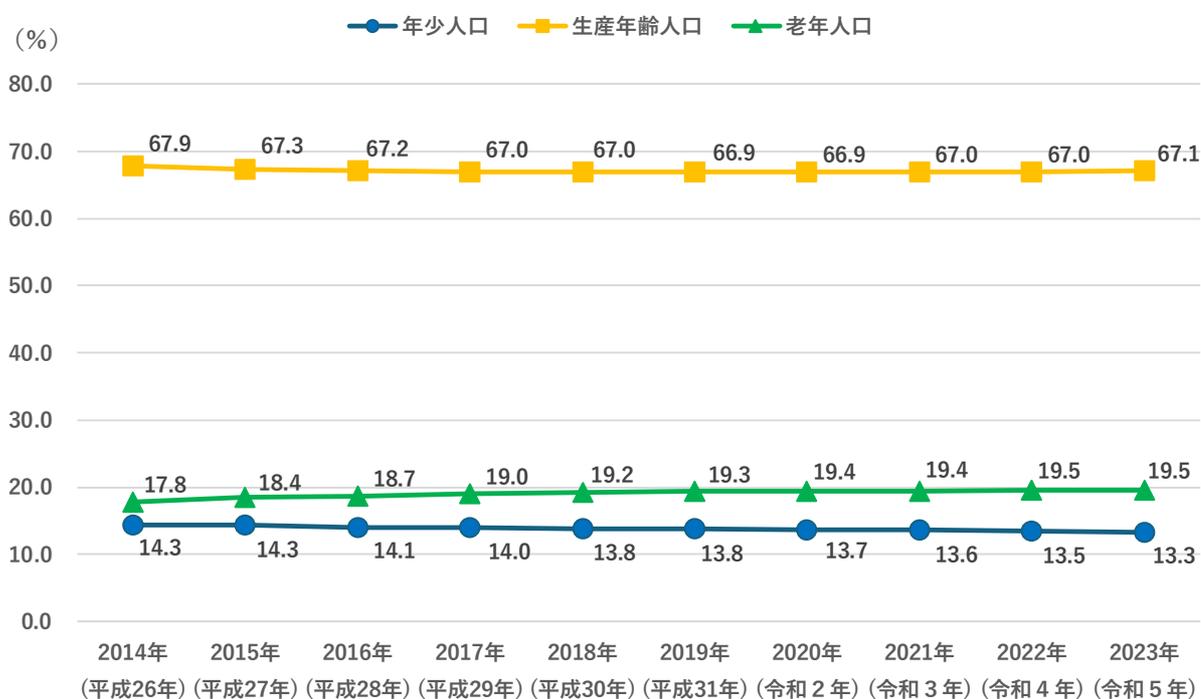


資料：埼玉県「埼玉県町(丁)字別人口調査結果報告」(各年1月1日時点)

②年齢3区分別人口比の推移

本市の年齢3区分別人口比は、2014年（平成26年）には年少人口（15歳未満）が14.3%、生産年齢人口（15～64歳）が67.9%、老年人口（65歳以上）が17.8%であったものが、2023年（令和5年）には年少人口が13.3%、生産年齢人口（15～64歳）が67.1%、老年人口（65歳以上）が19.5%となっている。

年少人口比、生産年齢人口比、老年人口比とも大きな変化はみられないが、年少人口比が1ポイント低下した一方で老年人口比は1.7ポイント増加しており、少子高齢化が緩やかに進行しているとみられる。



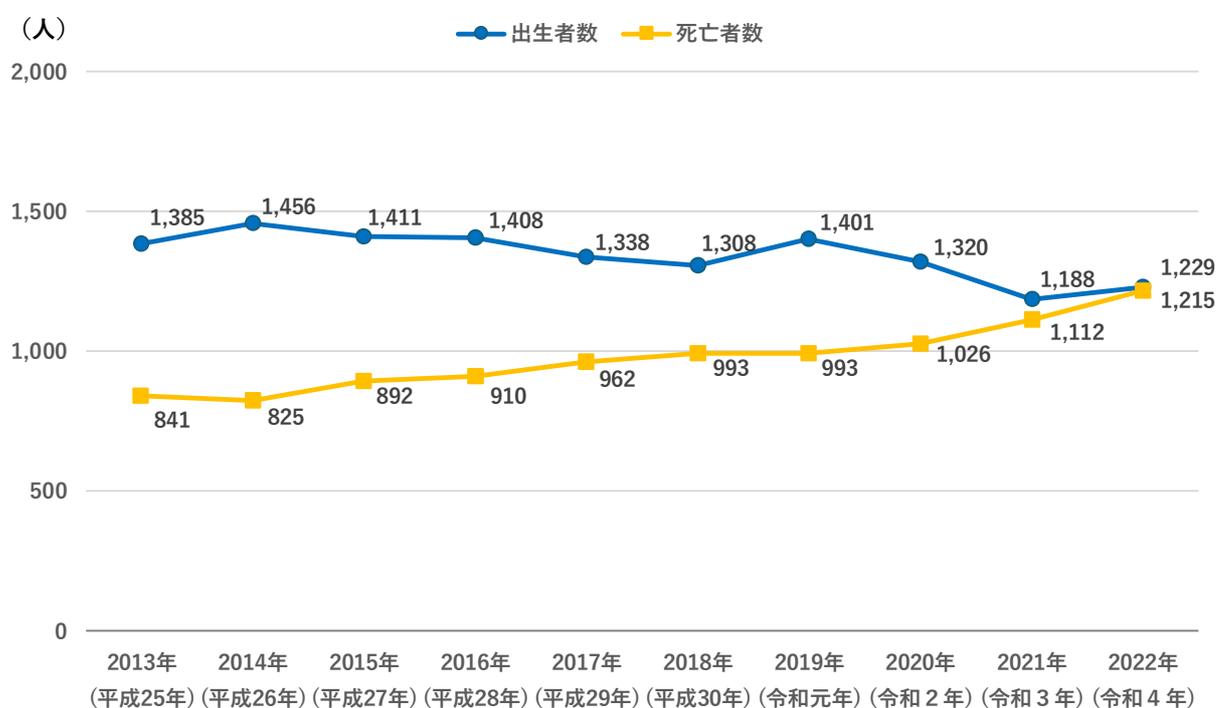
資料：総務省「住民基本台帳年齢階級別人口」（各年1月1日時点）

(2) 自然動態

①自然動態の推移

本市人口の自然動態（出生者数と死亡者数の推移）は、2013年（平成25年）には出生者数1,385人に対して死亡者数841人であり、544人の自然増であったものが、2022年（令和4年）には出生者数1,229人に対して死亡者数1,215人であり、14人の自然増となっている。

近年、2021年（令和3年）および2022年（令和4年）には出生者数と死亡者数が均衡しつつあり、出生者数が死亡者数を下回る「人口の自然減」の局面に突入しようとしている。

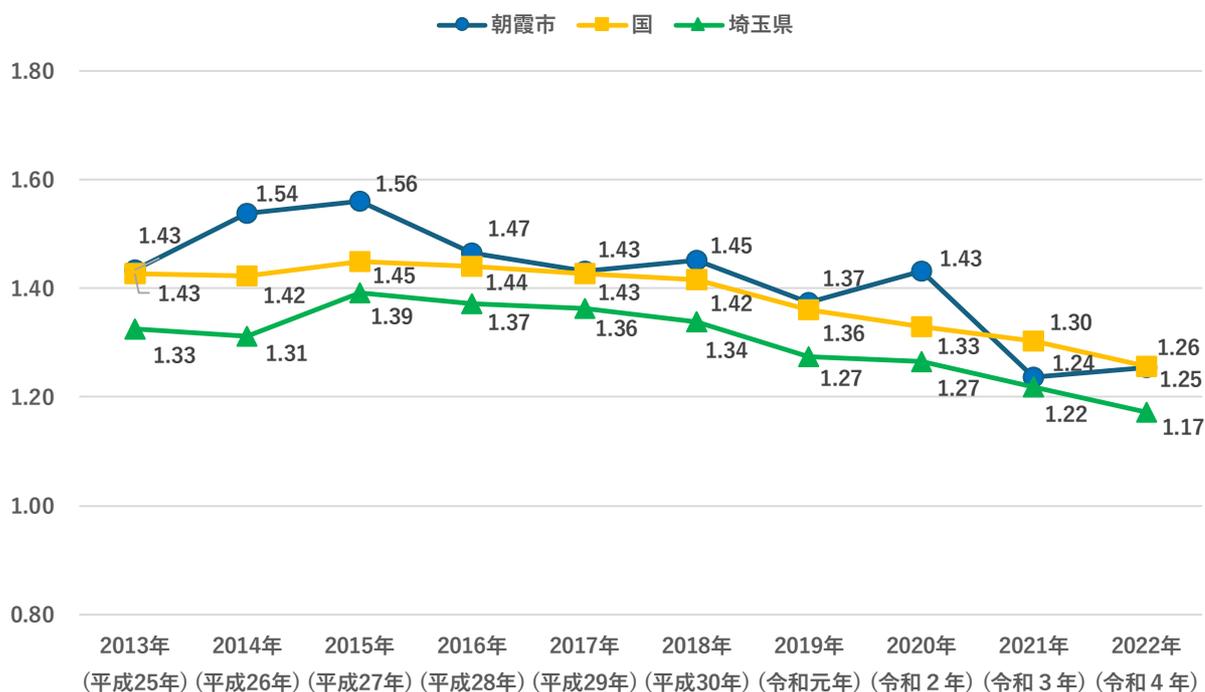


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（各年1月1日時点）

②合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、近年のピークであった2015年（平成27年）には1.56であったものが、2022年（令和4年）には1.25と0.3ポイント低下しており、国（1.26）の水準を下回っている。

2015年（平成27年）をピークとして低下傾向にある点は国・県も概ね同様であるが、低下の幅は本市が最も大きく、今後の少子化が懸念される。



資料：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

③母の年齢5歳階級別出生率の変化

2022年(令和4年)における母の年齢5歳階級別出生率を、最近10か年で合計特殊出生率が最も高かった2015年(平成27年)と比較すると、20～39歳における出生率が低下していることがわかる。

特に25～29歳では0.44から0.32へ、30～34歳では0.61から0.51へと0.1ポイント以上低下しており、この年代の出生率低下が本市の合計特殊出生率の低下につながっている部分大きいとみられる。

2015年(平成27年)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	合計
朝霞市	0.01	0.10	0.44	0.61	0.34	0.06	0.00	1.56
国	0.02	0.15	0.42	0.52	0.29	0.06	0.00	1.45
国との差	▲ 0.01	▲ 0.05	0.02	0.09	0.05	▲ 0.00	0.00	0.11



2022年(令和4年)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	合計
朝霞市	0.00	0.06	0.32	0.51	0.30	0.07	0.00	1.25
国	0.01	0.09	0.35	0.47	0.27	0.06	0.00	1.26
国との差	▲ 0.01	▲ 0.04	▲ 0.03	0.04	0.02	0.01	▲ 0.00	▲ 0.00
2015年(平成27年)との差	▲ 0.01	▲ 0.04	▲ 0.12	▲ 0.10	▲ 0.04	0.01	▲ 0.00	▲ 0.31

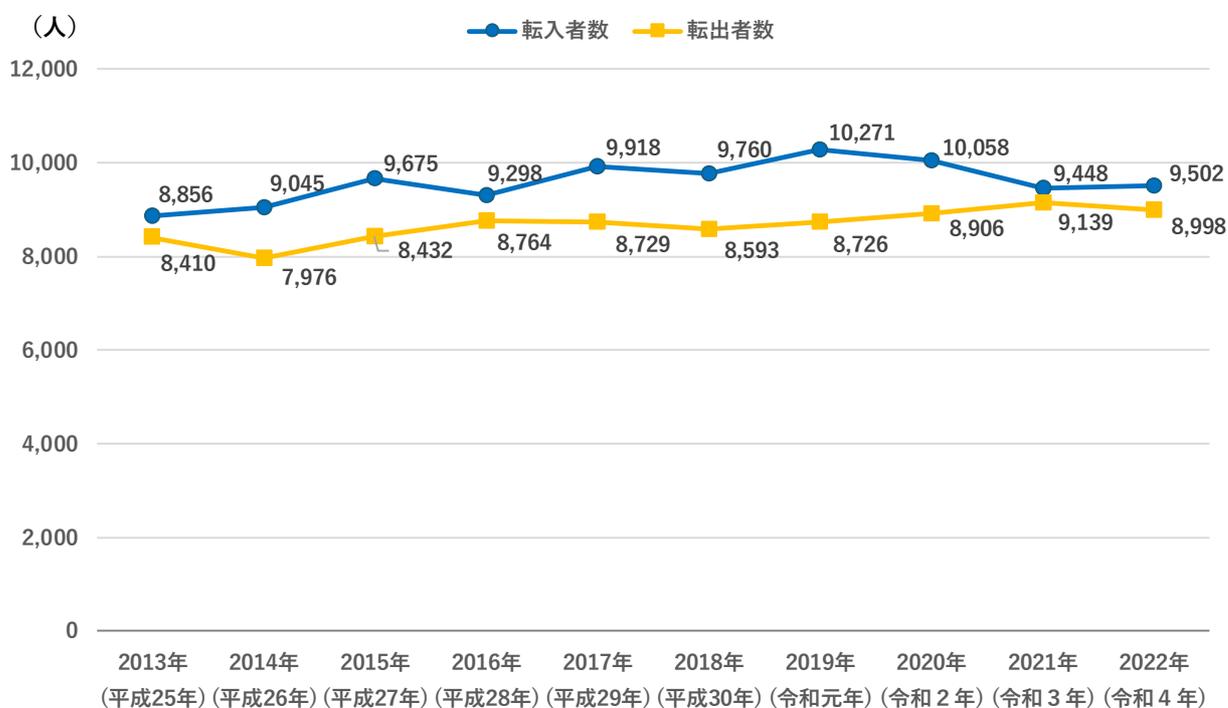
資料：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

(3) 社会動態

①社会動態の推移

本市人口の社会動態（転入者数と転出者数の推移）をみると、転入者数と転出者数の差が最大であった2019年（令和元年）には転入者数10,271人に対して転出者数8,726人であり、1,545人の社会増となっていた。

2022年（令和4年）には転入者数9,502人に対して転出者数8,998人であり、504人の社会増となっている。近年、2021年（令和3年）および2022年（令和4年）には転入者数と転出者数が均衡しつつあり、転入者数が転出者数を下回る「人口の社会減」への突入も懸念される。



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（各年1月1日時点）

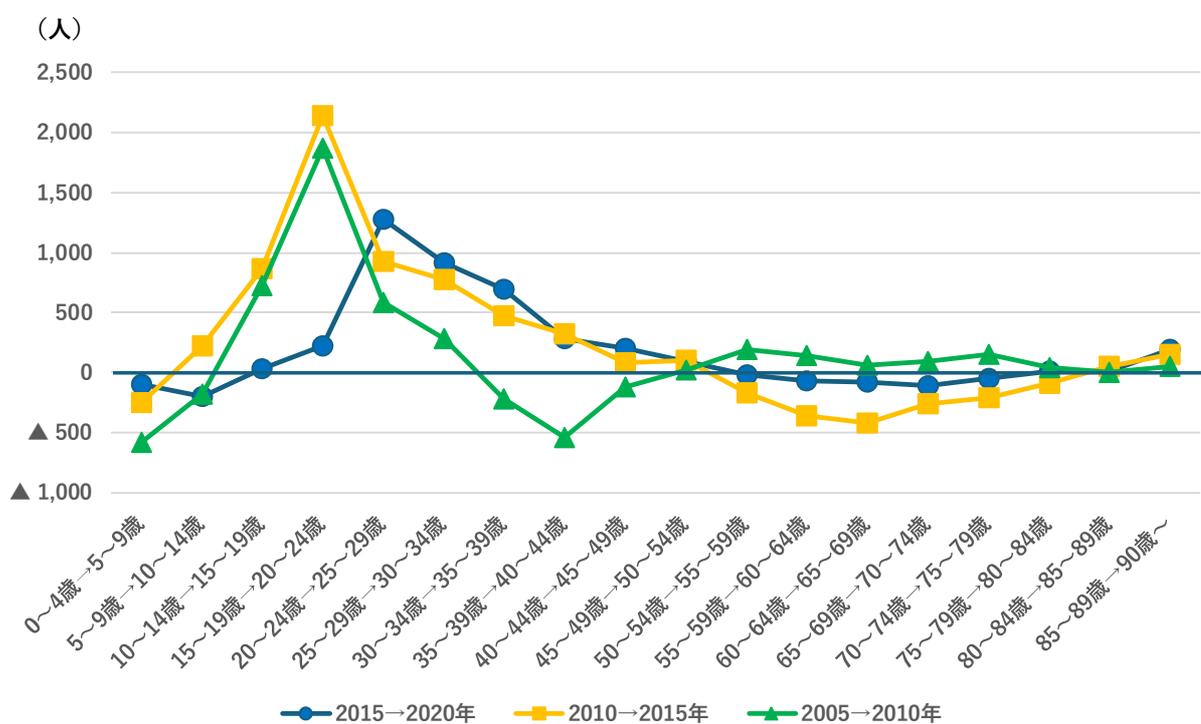
③年齢5歳階級別純移動状況の変化

国勢調査から、本市の年齢5歳階級別純移動（転入者数－転出者数）をみると、2005年（平成17年）から2010年（平成22年）、および2010年（平成22年）から2015年（平成27年）では、10歳代後半から20歳代前半の若者の転入超過が約2,000人に達していたことがわかる。

これに対し、2015年（平成27年）から2020年（令和2年）の5年間では、10歳代後半から20歳代前半の若者の転入超過規模が大幅に減少し、転入超過のピークとなる年代が20歳代前半から後半へと移っている様子が見えてくる。

他方、30歳代については、2005年（平成17年）から2010年（平成22年）では転出超過にあったところ、2010年（平成22年）から2015年（平成27年）では転入超過に転じるなど、傾向に変化がみられている。

なお、本市の場合、10歳未満の子どもについては、いずれの期間においても転出超過であるが、その規模は次第に減少して転出入均衡に近づきつつある。

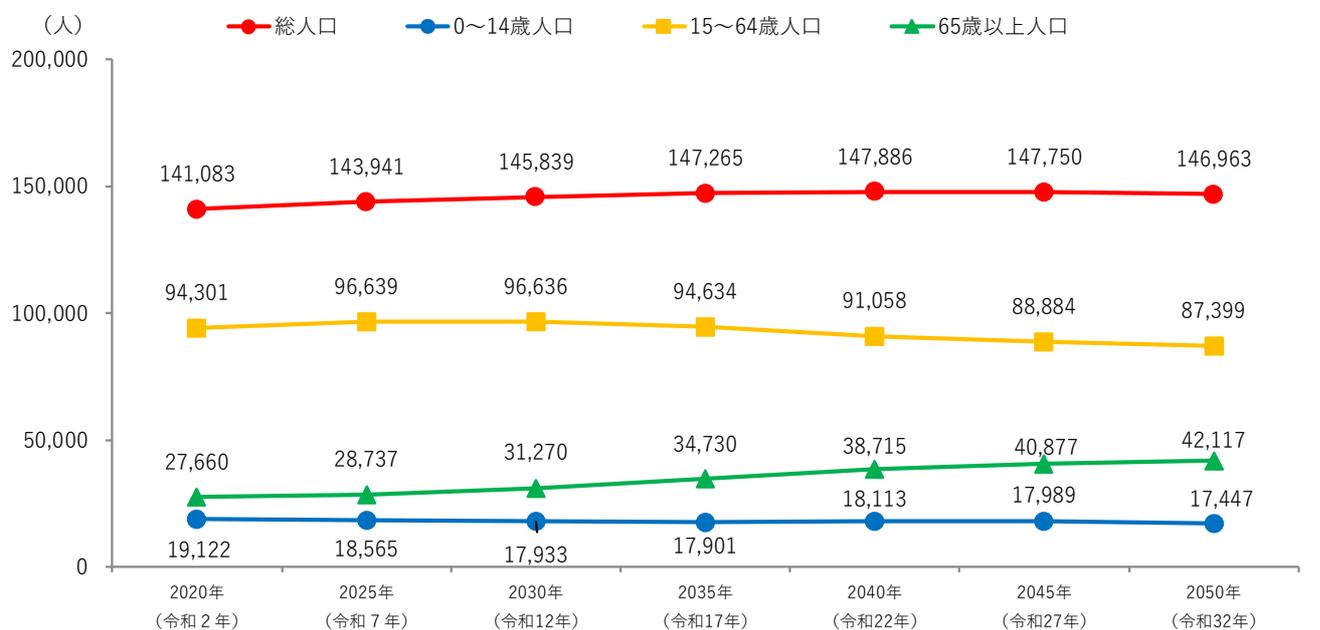


資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日時点）

3 国（社人研）推計結果の検証

(1) 国（社人研）推計の結果

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）は、令和5年（2023年）12月22日に『日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）』を公表した。将来の本市人口についても公表されており、2040年（令和22年）に147,886人（国勢調査人口ベース）となってピークを迎えたのち、緩やかな減少局面に入るものと推計されている。



資料：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）』

社人研推計の期間は、2050年（令和32年）までとなっている。また、推計は、国勢調査人口を基準人口として実施されている。

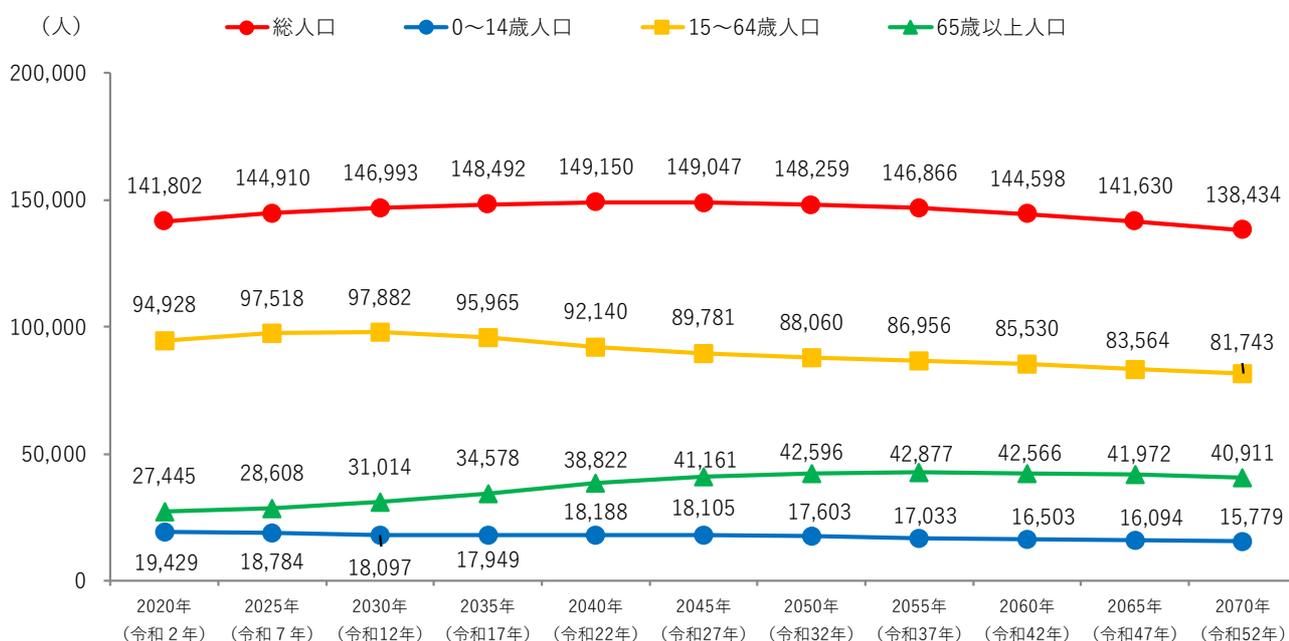
本市の場合、国勢調査人口が住民基本台帳人口を下回る傾向にあることから、住民基本台帳人口をベースとした実績値（4ページ）と社人研推計結果とは、直接の比較ができない。

このため、次に、住民基本台帳人口を基準人口とし、推計の期間を2070年（令和52年）まで延長した「社人研準拠推計」を行った。

(2) 社人研準拠推計の結果

住民基本台帳人口を基準人口とし、推計の期間を2070年（令和52年）まで延長した「社人研準拠推計」を行った。このとき、推計に用いる仮定値（純移動率など）は社人研が公表している朝霞市の数値を採用し、社人研推計の期間は2050年（令和32年）までであるので、2050年（令和32年）の仮定値を2070年（令和52年）まで延長して用いている。

社人研準拠推計の結果は次のとおりである。2040年（令和22年）には149,150人（国勢調査人口ベースと比較して+1,264人）となってピークを迎えたのち、緩やかな減少局面に入るものと推計される。



(3) 社人研準拠推計結果の検証と独自推計の必要性

上記社人研準拠推計（住民基本台帳ベース、1月1日現在）では、2025年（令和7年）人口は144,910人と推計される。

しかしながら、本市の2024年（令和6年）1月1日現在の人口（実績値）は144,964人であり、既に2025年（令和7年）推計値を上回っている。2024年（令和6年）人口は前年比で約1,000人増加しており、かつ、本市人口増加の主要因である転入超過については子育て世代が多い（10ページ）ことから、今後、実績値と推計値の乖離がさらに拡大する懸念がある。

このようなことから、本推計では、本市の人口特性を踏まえた将来人口の独自推計（シミュレーション）を行うこととした。

4 朝霞市将来人口の推計（シミュレーション）

【人口推計（シミュレーション）の条件設定】

①出生に係るシミュレーション

これまでみてきた本市の人口特性を踏まえ、本推計では、出生と移動に関する推計条件を変化させ、合計9種のシミュレーションを行っている。

このうち、出生に関しては、次の3パターンの推計条件を設定している。

【出生中位】合計特殊出生率が**現状のまま推移**

合計特殊出生率は、2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値（1.35）とし、これらが未来にわたって変わらない（過去5年間の傾向のまま推移する）ものとした。

【出生高位】合計特殊出生率が**向上**

合計特殊出生率は、1.35（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値）から、国・県・本市の子ども子育て施策の成果等により、2030年（令和12年）には1.40、2040年（令和22年）には1.60、2070年（令和52年）には1.80に向上するものと仮定した。

【出生低位】合計特殊出生率が**低下**

合計特殊出生率は1.35（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値）から、2030年（令和12年）には1.30、2040年（令和22年）には1.20、2070年（令和52年）には1.00に低下するものと仮定した。

②移動に係るシミュレーション

次に、移動に関しては、次の3パターンの推計条件を設定している。

【移動高位】純移動率が**現状（転入超過）のまま推移**

純移動率は、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値を使用し、これらが未来にわたり変わらない（過去5年間の傾向のまま推移する）ものとした。

【移動中位】転出入が**緩やかに均衡へ**と向かう

純移動率は、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、本市の移住・定住施策の成果等によって転出入が緩やかに均衡へと向かい、2060年（令和42年）に転出入均衡（純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される）となるものと仮定した。

【移動低位】転出入が**比較的早期に均衡へ**と向かう

純移動率は、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年（令和22年）に転出入均衡（純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される）となるものと仮定した。

【個別結果】

(1) ベース推計—現状（過去5年間の傾向）のまま推移した場合

①考え方

ベース推計とは、本人口シミュレーションのベース（起点）となるものであり、出生や転出入の動向について、本市における過去5年間と同様の傾向が今後とも続くと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値（1.35）とし、また、純移動率については、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値を使用して、これらが未来にわたって変わらない（過去5年間の傾向のまま推移する）ものとした。

②推計条件

ア 基準人口

2020年（令和2年）住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における平均値
= 1.35

ウ 純移動率

2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

オ 0～4歳性比

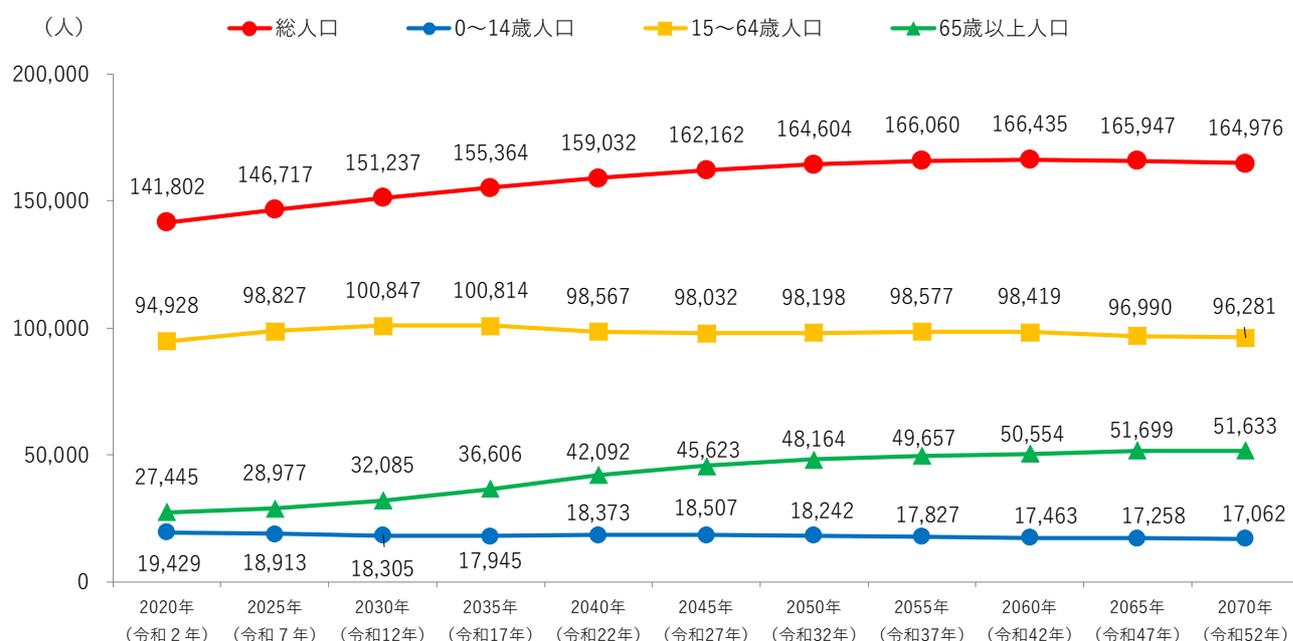
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には155,364人（65歳以上人口比率23.6%）となる。

総人口はその後も増加を続け、2050年（令和32年）には164,604人（65歳以上人口比率29.3%）に達するが、2060年（令和42年）をピークに減少に転じ、2070年（令和52年）には164,976人（65歳以上人口比率31.3%）となると推計される。

このように、ベース推計では、人口が中長期的に増加し続けるものの、2060年（令和42年）にピークを迎えたのちは減少に転じる。高齢化の程度は比較的低く、2070年（令和52年）でも高齢者は3人に1人未満となるものと見込まれる。



④ベース推計の評価ーベース推計は【出生中位・移動高位】推計

ベース推計は、出生や転出入の動向について、本市における過去5年間と同様の傾向が今後も続くと仮定した場合の推計である。

現在の本市の自然動態については、本資料6、7ページに示したとおり、合計特殊出生率が近年低下傾向にあり、出生者数と死亡者数が均衡しつつあるとはいえ、自然増を保っている。また、本市の社会動態については、本資料9、10ページに示したとおり、転入者数と転出者数が近年均衡に近づいてはいるとはいえ、比較的高水準の社会増で推移してきている。

このようなことから、ベース推計を【出生中位・移動高位】推計と位置付けて、この後のシミュレーションを展開していく。

(2)【出生高位×移動高位】推計

—合計特殊出生率が**向上**し、転出入の動向が**現状**のまま推移した場合

①考え方

【出生高位×移動高位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率が向上し、転出入の動向が現状（過去5年間と同様の傾向）のまま推移したと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値）から、2030年（令和12年）には1.40、2040年（令和22年）には1.60、2070年（令和52年）には1.80と向上するものと仮定した。

他方、純移動率については、ベース推計（【出生中位・移動高位】推計）と同様、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値を使用し、これらが未来にわたって変わらない（過去5年間の傾向のまま推移する）ものとした。

②推計条件

ア 基準人口

2020年（令和2年）住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における平均値＝1.35から、2030年（令和12年）には1.40、2040年（令和22年）には1.60、2070年（令和52年）には1.80と向上

ウ 純移動率

2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

オ 0～4歳性比

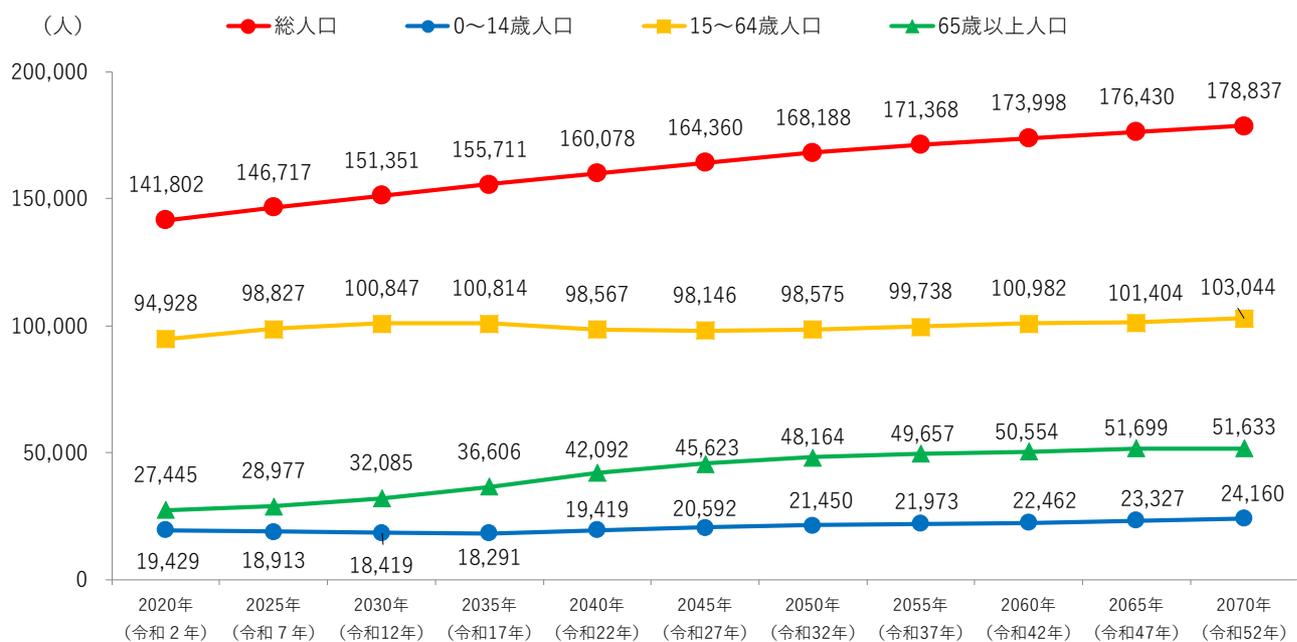
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には155,711人（65歳以上人口比率23.5%）となる。

総人口はその後も増加を続け、2050年（令和32年）には168,188人（65歳以上人口比率28.6%）、2070年（令和52年）には178,837人（65歳以上人口比率28.9%）に達すると推計される。

このように、【出生高位×移動高位】推計では、ベース推計（【出生中位・移動高位】推計）を上回って、減少に転じることなく人口が増加し続ける。高齢化の程度は低く、2070年（令和52年）でも65歳以上人口比率は30%未満にとどまるものと見込まれる。



(3)【出生低位×移動高位】推計

—合計特殊出生率が低下し、転出入の動向が現状のまま推移した場合

①考え方

【出生低位×移動高位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率が低下し、転出入の動向が現状（過去5年間と同様の傾向）のまま推移したと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値）から、2030年（令和12年）には1.30、2040年（令和22年）には1.20、2070年（令和52年）には1.00と低下するものと仮定した。

他方、純移動率については、ベース推計（【出生中位・移動高位】推計）と同様、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値を使用し、これらが未来にわたって変わらない（過去5年間の傾向のまま推移する）ものとした。

②推計条件

ア 基準人口

2020年（令和2年）住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における平均値＝1.35から、2030年（令和12年）には1.30、2040年（令和22年）には1.20、2070年（令和52年）には1.00と低下

ウ 純移動率

2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

オ 0～4歳性比

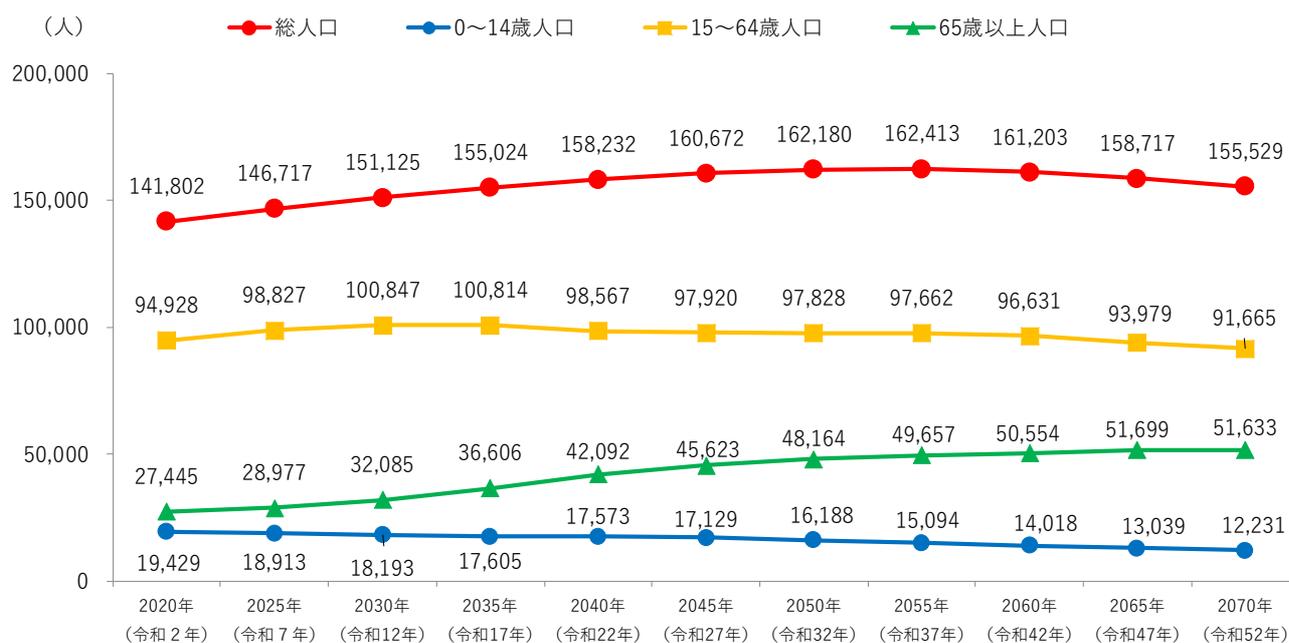
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には155,024人（65歳以上人口比率23.6%）となる。

総人口はその後も増加を続け、2050年（令和32年）には162,180人（65歳以上人口比率29.7%）に達するが、2055年（令和37年）をピークに減少に転じ、2070年（令和52年）には155,529人（65歳以上人口比率33.2%）となると推計される。

このように、【出生低位×移動高位】推計では、人口が当面は順調に増加し続けるものの、ベース推計（【出生中位×移動高位】推計）よりも5年早く2055年（令和37年）にピークを迎えたのち、減少に転じる。高齢化の程度は中程度であり、2070年（令和52年）には3人に1人が高齢者となるものと見込まれる。



(4)【出生中位×移動中位】推計

—合計特殊出生率が現状（過去5年間の傾向）のまま推移し、転出入が緩やかに均衡に向かった場合

①考え方

【出生中位×移動中位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率は現状（過去5年間と同様の傾向）のまま推移し、転出入が緩やかに均衡に向かったと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値）のまま推移するものと仮定した。

他方、純移動率については、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2060年（令和42年）に転出入均衡（純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される）となるものと仮定した。

②推計条件

ア 基準人口

2020年（令和2年）住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における平均値
= 1.35

ウ 純移動率

2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2060年（令和42年）に転出入均衡（純移動率ゼロ）へと変化

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

オ 0～4歳性比

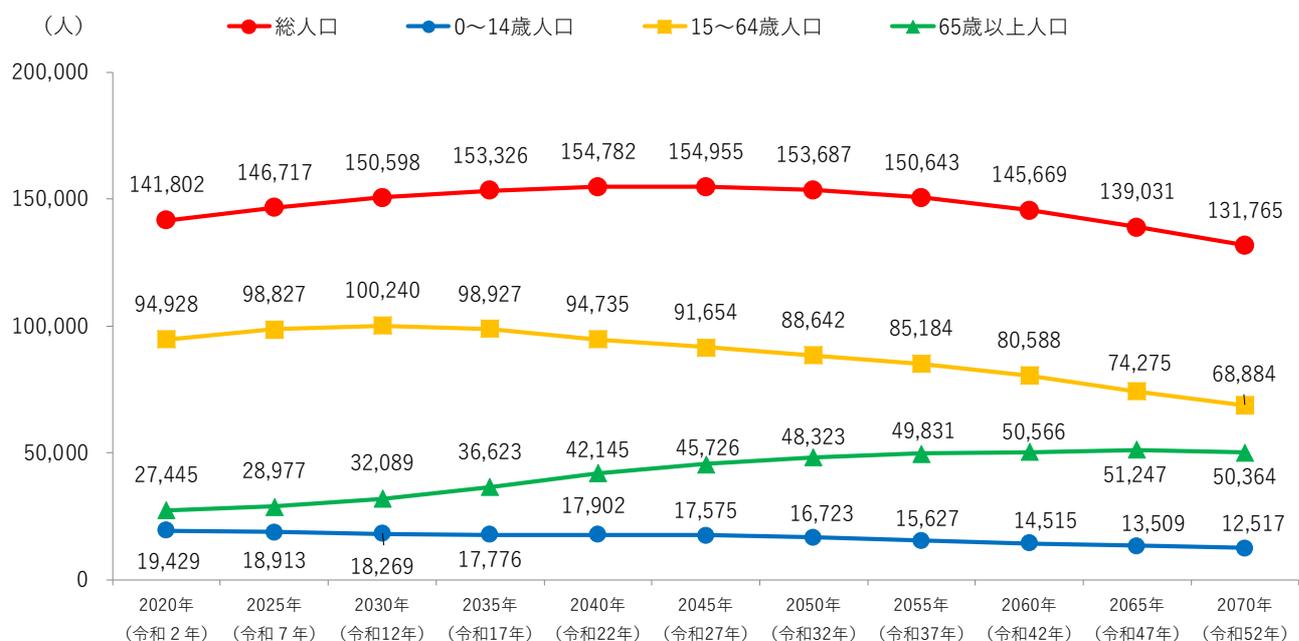
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には153,326人（65歳以上人口比率23.9%）となる。

総人口はその後も増加を続けるが、2045年（令和27年）をピークに減少に転じ、2050年（令和32年）には153,687人（65歳以上人口比率31.4%）、2070年（令和52年）には131,765人（65歳以上人口比率38.2%）となると推計される。

このように、【出生中位×移動中位】推計では、人口が当面は増加し続けるものの、約20年後の2045年（令和27年）にピークを迎えたのち、減少に転じる。高齢化の程度は比較的高く、2070年（令和52年）には3人に1人以上が高齢者となるものと見込まれる。



(5)【出生高位×移動中位】推計

—合計特殊出生率が**向上**し、転出入が**緩やかに均衡**に向かった場合

①考え方

【出生高位×移動中位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率が向上し、転出入が緩やかに均衡に向かった場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35(2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における5か年の平均値)から、2030年(令和12年)には1.40、2040年(令和22年)には1.60、2070年(令和52年)には1.80と向上するものと仮定した。

他方、純移動率については、2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2060年(令和42年)に転出入均衡(純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される)となるものと仮定した。

②推計条件

ア 基準人口

2020年(令和2年)住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における平均値=1.35から、2030年(令和12年)には1.40、2040年(令和22年)には1.60、2070年(令和52年)には1.80と向上

ウ 純移動率

2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2060年(令和42年)に転出入均衡(純移動率ゼロ)へと変化

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

オ 0~4歳性比

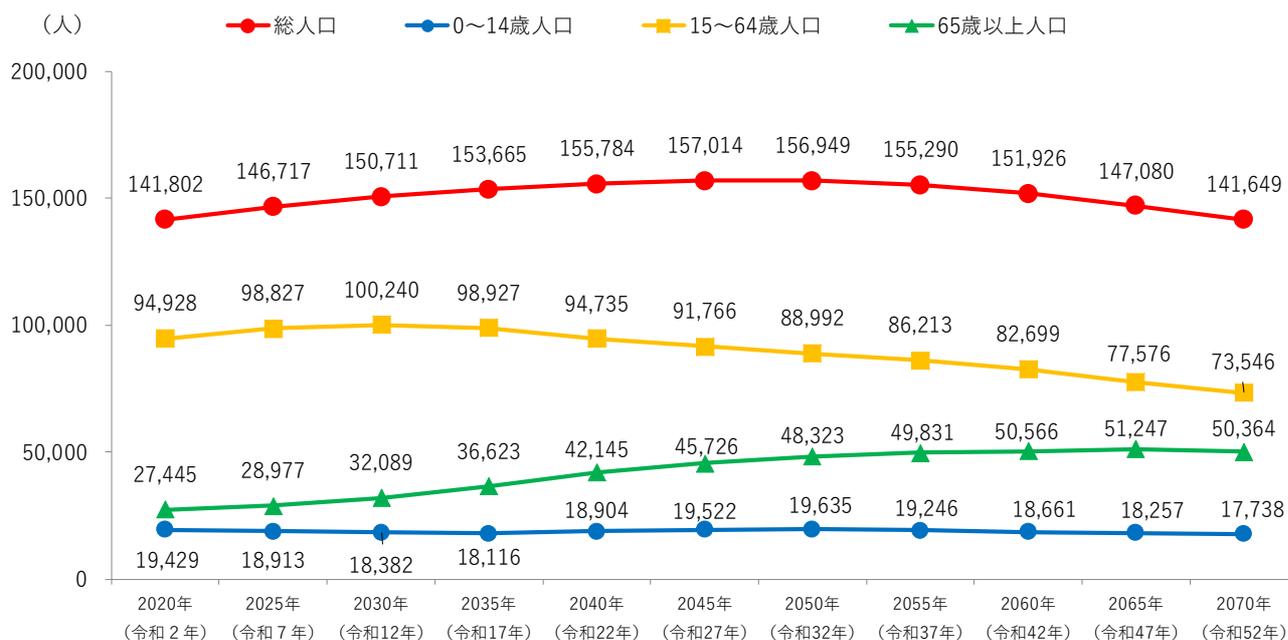
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には153,665人（65歳以上人口比率23.8%）となる。

総人口はその後も増加を続けるが、2045年（令和27年）をピークに減少に転じ、2050年（令和32年）には156,949人（65歳以上人口比率30.8%）、2070年（令和52年）には141,649人（65歳以上人口比率35.6%）となると推計される。

このように、【出生高位×移動中位】推計でも、人口が当面は増加し続けるものの、【出生中位×移動中位】と同様に約20年後の2045年（令和27年）にピークを迎えたのち、減少に転じる。高齢化の程度は比較的高く、2070年（令和52年）には3人に1人以上が高齢者となるものと見込まれる。



(6)【出生低位×移動中位】推計

—合計特殊出生率が低下し、転出入が緩やかに均衡に向かった場合

①考え方

【出生低位×移動中位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率が低下し、転出入が緩やかに均衡に向かった場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35(2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における5か年の平均値)から、2030年(令和12年)には1.30、2040年(令和22年)には1.20、2070年(令和52年)には1.00と低下するものと仮定した。

他方、純移動率については、2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2060年(令和42年)に転出入均衡(純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される)となるものと仮定した。

②推計条件

ア 基準人口

2020年(令和2年)住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における平均値=1.35から、2030年(令和12年)には1.30、2040年(令和22年)には1.20、2070年(令和52年)には1.00と低下

ウ 純移動率

2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2060年(令和42年)に転出入均衡(純移動率ゼロ)へと変化

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

オ 0~4歳性比

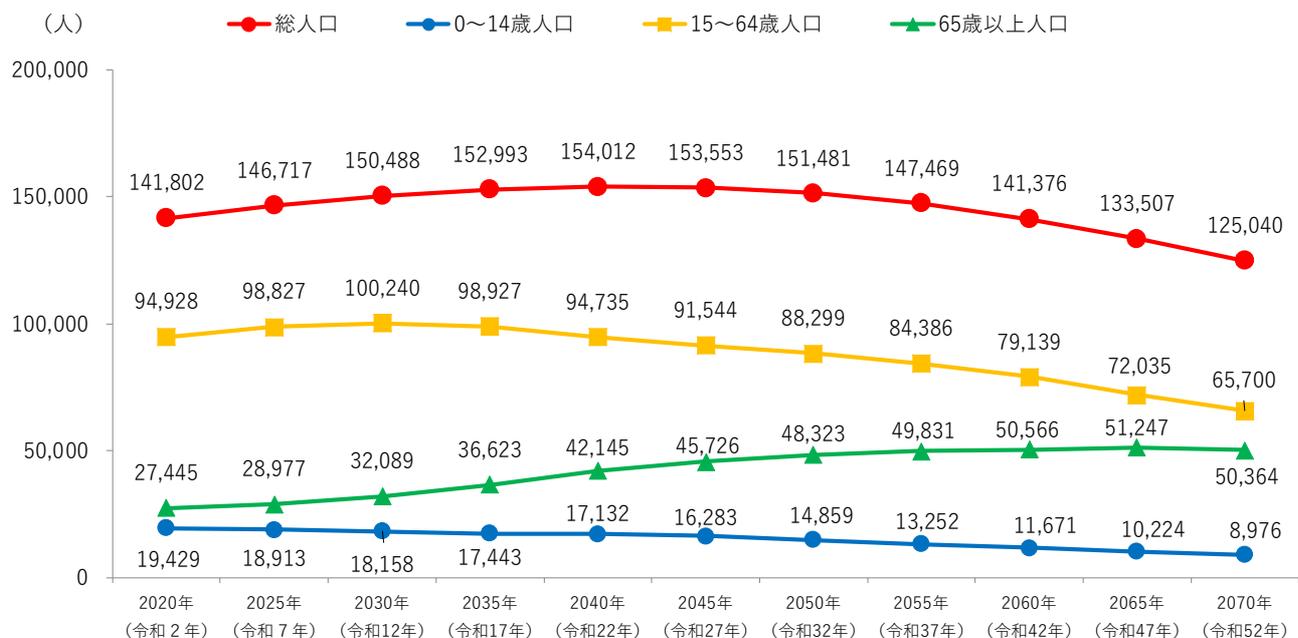
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には152,993人（65歳以上人口比率23.9%）となる。

総人口はその後も増加を続けるが、2040年（令和22年）をピークに減少に転じ、2050年（令和32年）には151,481人（65歳以上人口比率31.9%）、2070年（令和52年）には125,040人（65歳以上人口比率40.3%）となると推計される。

このように、【出生低位×移動中位】推計でも人口が当面は増加し続けるものの、【出生中位×移動中位】推計より5年早く2040年（令和22年）にピークを迎えたのちは減少に転じる。高齢化の程度は高く、2070年（令和52年）には40%以上が高齢者となるものと見込まれる。



(7)【出生中位×移動低位】推計

—合計特殊出生率が現状（過去5年間の傾向）のまま推移し、転出入が比較的早期に均衡に向かった場合

①考え方

【出生中位×移動低位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率は現状（過去5年間と同様の傾向）のまま推移し、転出入が比較的早期に均衡に向かったと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35（2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における5か年の平均値）のまま推移するものと仮定した。

他方、純移動率については、2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年（令和22年）に転出入均衡（純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される）となるものと仮定した。

②推計条件

ア 基準人口

2020年（令和2年）住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年（平成30年）から2022年（令和4年）における平均値
= 1.35

ウ 純移動率

2018年（平成30年）から2023年（令和5年）の5年間における男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年（令和22年）に転出入均衡（純移動率ゼロ）へと変化

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

オ 0～4歳性比

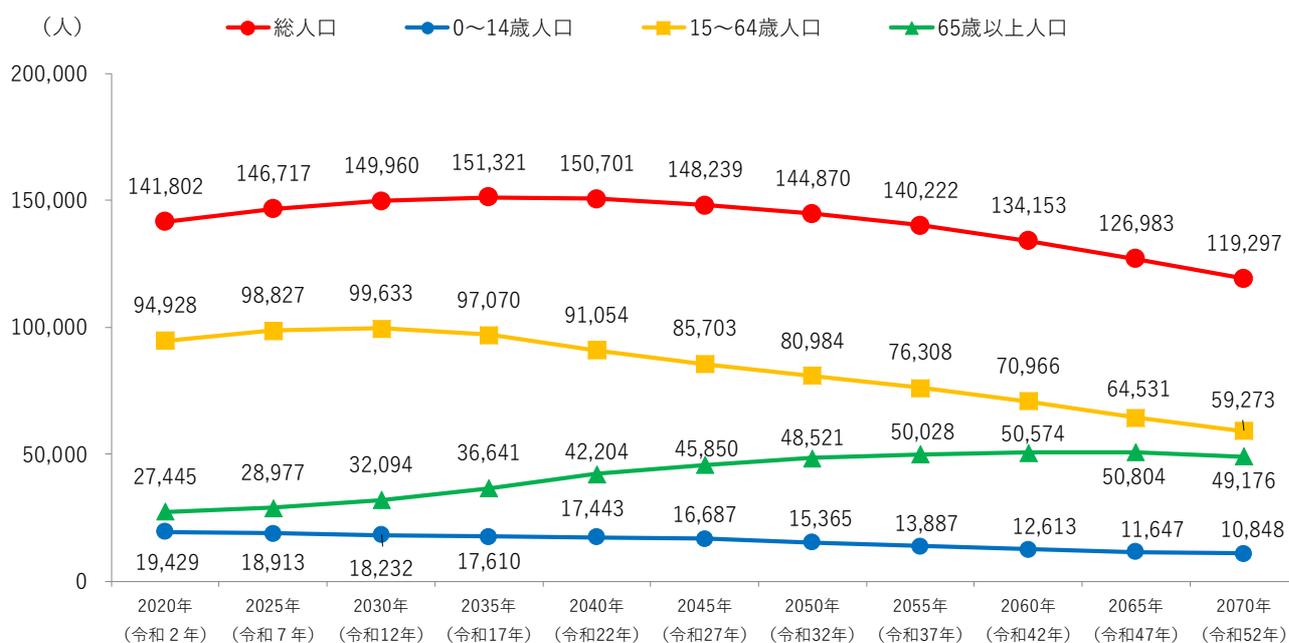
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には151,321人（65歳以上人口比率24.2%）となる。

総人口は2035年（令和17年）をピークに減少に転じ、2050年（令和32年）には144,870人（65歳以上人口比率33.5%）、2070年（令和52年）には119,297人（65歳以上人口比率41.2%）となると推計される。

このように、【出生中位×移動低位】推計では、人口は約10年後の2035年（令和17年）にピークを迎えたのち、減少に転じる。高齢化の程度は高く、2070年（令和52年）には40%以上が高齢者となるものと見込まれる。



(8)【出生高位×移動低位】推計

—合計特殊出生率が**向上**し、転出入が**比較的早期に均衡**に向かった場合

①考え方

【出生高位×移動低位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率が向上し、転出入が比較的早期に均衡に向かったと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35(2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における5か年の平均値)から、2030年(令和12年)には1.40、2040年(令和22年)には1.60、2070年(令和52年)には1.80と向上するものと仮定した。

他方、純移動率については、2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間ににおける男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年(令和22年)に転出入均衡(純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される)となるものと仮定した。

②推計条件

ア 基準人口

2020年(令和2年)住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における平均値=1.35から、2030年(令和12年)には1.40、2040年(令和22年)には1.60、2070年(令和52年)には1.80と向上

ウ 純移動率

2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間ににおける男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年(令和22年)に転出入均衡(純移動率ゼロ)へと変化

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

オ 0~4歳性比

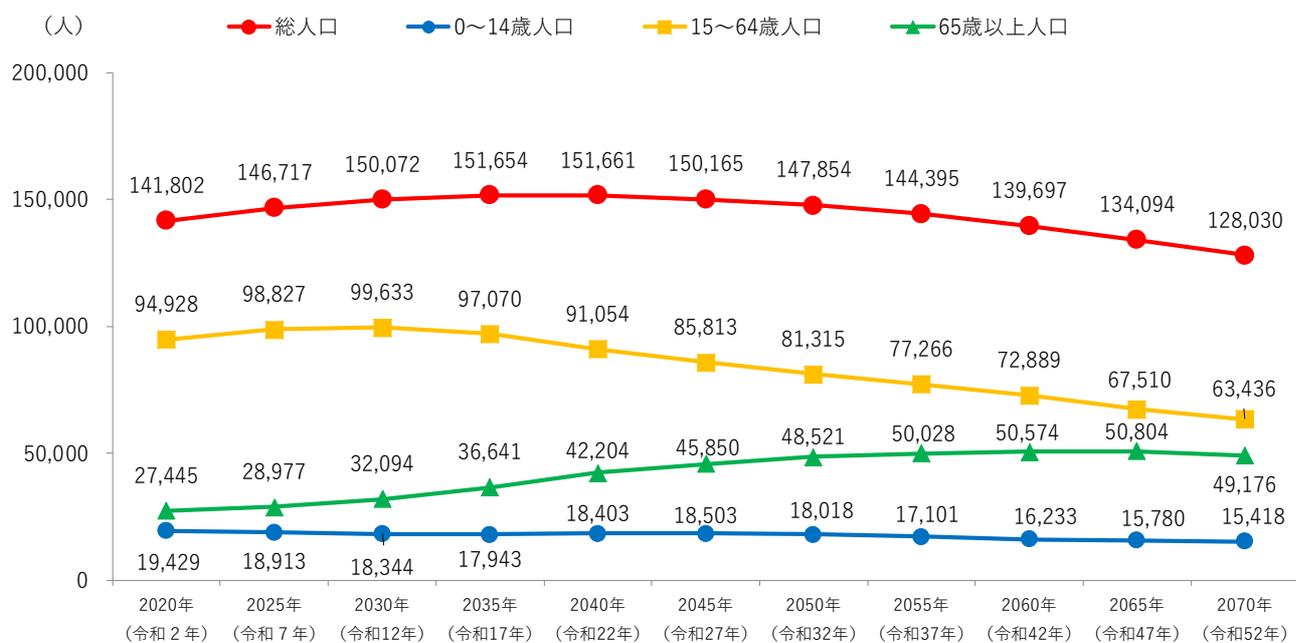
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には151,654人（65歳以上人口比率24.2%）となる。

総人口は2040年（令和22年）をピークに減少に転じ、2050年（令和32年）には147,854人（65歳以上人口比率32.8%）、2070年（令和52年）には128,030人（65歳以上人口比率38.4%）となると推計される。

このように、【出生高位×移動低位】推計でも、人口が当面は増加し続けるものの、約15年後の2040年（令和22年）にピークを迎えたのち、減少に転じる。高齢化の程度は比較的高く、2070年（令和52年）には3人に1人以上が高齢者となるものと見込まれる。



(9)【出生低位×移動低位】推計

—合計特殊出生率が低下し、転出入が比較的早期に均衡に向かった場合

①考え方

【出生低位×移動低位】推計とは、出生や転出入の動向について、合計特殊出生率が低下し、転出入が比較的早期に均衡に向かったと仮定した場合の推計である。

具体的には、合計特殊出生率については1.35(2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における5か年の平均値)から、2030年(令和12年)には1.30、2040年(令和22年)には1.20、2070年(令和52年)には1.00と低下するものと仮定した。

他方、純移動率については、2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間ににおける男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年(令和22年)に転出入均衡(純移動率ゼロ。転入超過・転出超過とも解消される)となるものと仮定した。

②推計条件

ア 基準人口

2020年(令和2年)住民基本台帳人口

イ 合計特殊出生率

2018年(平成30年)から2022年(令和4年)における平均値=1.35から、2030年(令和12年)には1.30、2040年(令和22年)には1.20、2070年(令和52年)には1.00と低下

ウ 純移動率

2018年(平成30年)から2023年(令和5年)の5年間ににおける男女別・年齢5歳階級別の変化率から算出した値から、2040年(令和22年)に転出入均衡(純移動率ゼロ)へと変化

エ 生残率

国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

オ 0~4歳性比

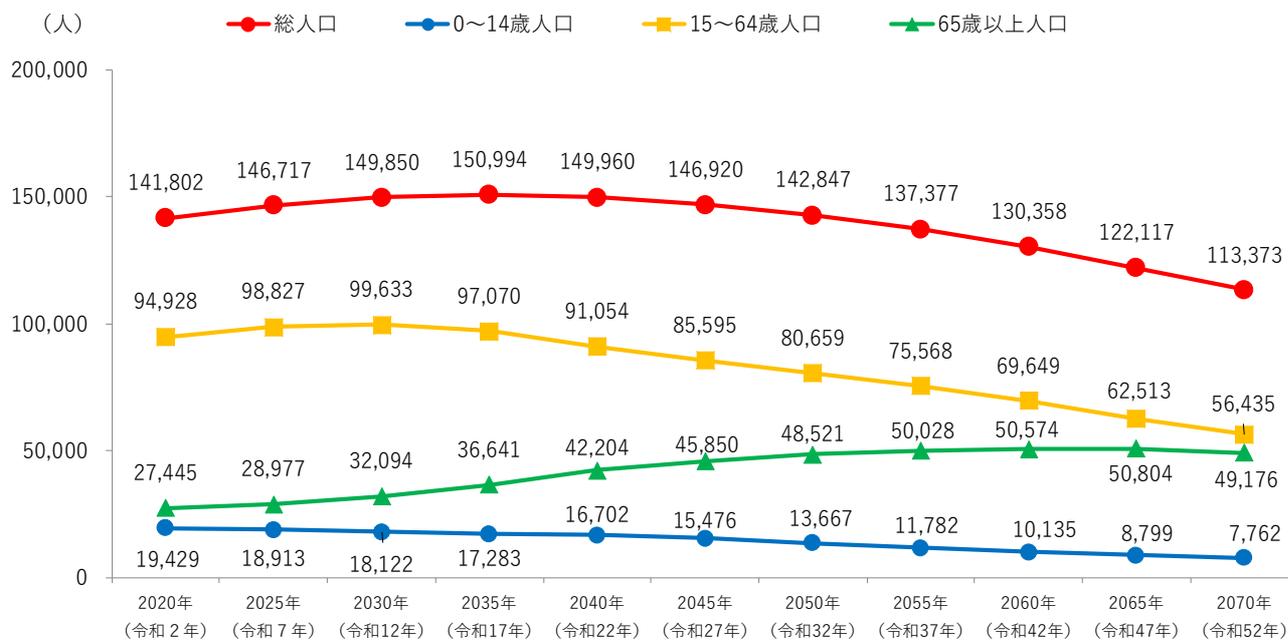
国立社会保障・人口問題研究所「将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比_日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」_朝霞市を採用

③推計結果

推計の結果、本市の総人口は、基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には150,994人（65歳以上人口比率24.3%）となる。

総人口は2035年（令和17年）をピークに減少に転じ、2050年（令和32年）には142,847人（65歳以上人口比率34.0%）、2070年（令和52年）には113,373人（65歳以上人口比率43.4%）となると推計される。

このように、【出生低位×移動低位】推計では、【出生中位×移動低位】推計と同様に人口は2035年（令和17年）にピークを迎えたのち減少に転じるが、人口減少と高齢化の程度は最も高く、2070年（令和52年）には45%近くが高齢者となるものと見込まれる。



【人口推計（シミュレーション）結果の総括】

①出生に係るシミュレーション

本市の合計特殊出生率は、近年低下傾向にある。そのため今後、【出生低位】推計で仮定したように、更なる低下をたどる可能性も考えられる。

もちろん、合計特殊出生率の向上が促され、【出生高位】の推計で仮定したような状況、すなわち2030年（令和12年）には1.40、2040年（令和22年）には1.60となり、2070年（令和52年）には1.80と向上していくことが望ましいのは確かである。

しかしながら、本市の合計特殊出生率は2015年（平成27年）以降低下傾向にあり、かつ、その向上は本市の取組によって直接的に図られるものではなく限界もあることから、現在の趨勢のままであれば低下していく合計特殊出生率を維持する【出生中位】の考えに立つのが妥当ではないかと考える。

②移動に係るシミュレーション

本市の転出入については、転入超過を維持してはいるものの、近年では転出入均衡に近い動向にある。わが国全体が人口減少に向かう中、将来にわたって高い水準の転入超過を持続していけるかがポイントとなる。

その意味で、【移動高位】推計は理想的ではあるが、シミュレーション（2）【出生高位×移動高位】推計に示したとおり、将来にわたり人口増加が続いて約18万人に達するという想定が現実的かどうかは、議論が必要である。

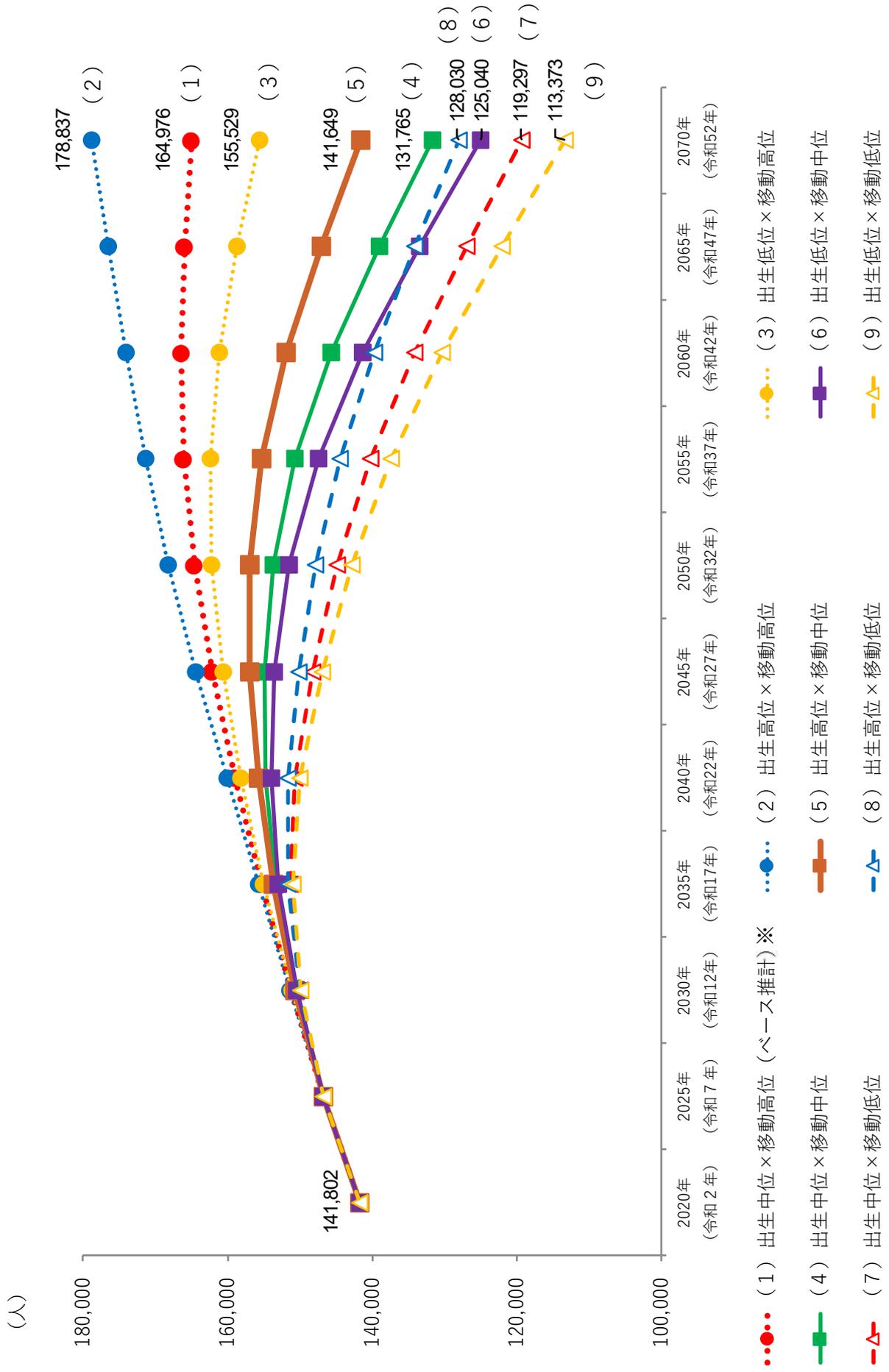
他方、「「未来の東京」戦略 version up 2023」によれば、東京都の人口は2030年（令和12年）をピークに減少に転じると推計されている。これは、全国的な人口減少の影響から社会増が縮小し、かつ、出生者数の緩やかな減少と高齢化による死亡者数の増加で自然減は拡大する、との見込みによる。

本市に限らず、県南各市の転入超過は東京都からの人口流入に負うところが大きいと思われ、東京都が人口減少に向かう中、今後も高水準の社会増を維持し続けられるかは注視を要する。このような状況の中、本市の転出入も緩やかに均衡へと向かう【移動中位】の考えに立つのが妥当と考える。

③人口推計シミュレーション結果の総括

シミュレーション結果のグラフと総括表を次ページより示す。①及び②に示したとおり、【出生中位】と【移動中位】の組み合わせであるシミュレーション（4）（21～22ページ）を軸として検討を進めることが考えられる。

この場合、本市の総人口は基本構想の目標年次である2035年（令和17年）には153,326人、2070年（令和52年）には131,765人となると推計される。



※過去5年間の傾向が今後も続くと仮定した場合の推計である

人口推計シミュレーション結果【総括表】

番号	推計	2035年（令和17年）		2050年（令和32年）		2070年（令和52年）		人口ピーク		
		総人口	高齢化率	総人口	高齢化率	総人口	高齢化率	年	総人口	高齢化率
(1)	出生中位×移動高位 (ベース推計)	155,364	23.6	164,604	29.3	164,976	31.3	2060年 (令和42年)	166,435	30.4
(2)	出生高位×移動高位	155,711	23.5	168,188	28.6	178,837	28.9	2070年 (令和52年)～	増加を続ける	30%未満
(3)	出生低位×移動高位	155,024	23.6	162,180	29.7	155,529	33.2	2055年 (令和37年)	162,413	30.6
(4)	出生中位×移動中位	153,326	23.9	153,687	31.4	131,765	38.2	2045年 (令和27年)	154,955	29.5
(5)	出生高位×移動中位	153,665	23.8	156,949	30.8	141,649	35.6	2045年 (令和27年)	157,014	29.1
(6)	出生低位×移動中位	152,993	23.9	151,481	31.9	125,040	40.3	2040年 (令和22年)	154,012	27.4
(7)	出生中位×移動低位	151,321	24.2	144,870	33.5	119,297	41.2	2035年 (令和17年)	151,321	24.2
(8)	出生高位×移動低位	151,654	24.2	147,854	32.8	128,030	38.4	2040年 (令和22年)	151,661	27.8
(9)	出生低位×移動低位	150,994	24.3	142,847	34.0	113,373	43.4	2035年 (令和17年)	150,994	24.3
		白数字		白数字		白数字		黒数字	最も少ない（低い）	

(参考資料) 用語解説

用語（50音順）	解説
仮定値	推計の際、地域の実情や今後の予測等を踏まえて変化させる仮の値（パラメーター）であり、合計特殊出生率、純移動率、生残率、0～4歳性比等がある。
基準人口	推計の起点となる人口をいう。本推計では、令和2年住民基本台帳人口（1月1日。国公表人口）の人口としており、推計結果も各年1月1日現在の人口となる。
コーホート要因法	性別・年齢階級別の人口集団（コーホート）に生ずる変化を、その要因（出生・死亡および転入・転出）ごとに計算して将来の人口を求める手法をいう。
子ども女性比	子どもと女性の比率。社人研では、ある年の0歳から4歳の人口（男女計）を、同年の20歳から45歳女性人口で割った値をいう。
合計特殊出生率	1人の女性が一生の間に産むと想定される子どもの数であり、女性の年齢別出生率を15歳から49歳まで合計した値をいう。
(人口の) 自然動態 (人口の) 自然増 (人口の) 自然減	ある年における出生者数と死亡者数の状況をいう。出生者数が死亡者数を上回れば自然増といい、その反対であれば自然減という。
(人口の) 社会動態 (人口の) 社会増 (人口の) 社会減	ある年における転入者数と転出者数の状況をいう。転入者数が転出者数を上回れば社会増といい、その反対であれば社会減という。
純移動率	本推計では、X年のY歳からY+4歳人口に対する、X年+5年後のY+5歳からY+9歳人口における転入者と転出者の差（純移動数）の割合をいう。

用語（50音順）	解説
生残率	本推計では、X年のY歳からY+4歳人口が、X年+5年後に、死亡せずY+5歳からY+9歳人口として生存している割合をいう。
0～4歳性比	ある年における0歳から4歳の女性人口を100とした時の0歳から4歳の男性人口の割合をいう。

朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】調査結果の概要

基礎調査から

《時代潮流》外部環境

- ①人口減少と高齢化の進行
- ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展
- ③子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開
- ④人生100年時代の到来とQOL(生活の質)の重視
- ⑤社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)と多様性(ダイバーシティ)の尊重
- ⑥安全・安心な暮らしに対する意識の高まり
- ⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展
- ⑧DX(デジタル・トランスフォーメーション)の進展

《主要統計指標》内部環境

- ・本市は自然増・社会増であるが、増加幅は縮小傾向
- ・25~39歳の有配偶率、合計特殊出生率が高い
- ・高齢化は緩やかで、人口構造が最も若い都市の一つ
- ・昼夜間人口比率、自市内従業割合は低い
- ・ベッドタウンの性格が強く、就労の場としての拠点性低
- ・相対的に見て高い所得水準にある市民が多い
- ・医療提供基盤はやや弱い、健康寿命は長い
- ・自治会加入率が低く、かつ、一貫して低下傾向
- ・硬直化が見られているが、財政状況は比較的良好

《課題の整理～時代潮流と統計指標から～》

- (1) **人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備える必要がある**
 - ・総人口の水準を維持しながら、将来にわたり、バランスの良い人口構成を維持することが重要
- (2) **社会変革の進展を好機と捉え、移住・定住等を促していく必要がある**
 - ・オンライン化の進展を背景に、移住・定住等を促し、『住まい、働く場』としての機能を高める
- (3) **「子育てがしやすいまち」を実感できるように子育て支援と教育の充実が必要である**
 - ・移住・定住の促進のためにも、子育て支援の充実による魅力向上と教育環境が重要
- (4) **豊かで安全・安心な、朝霞市での暮らしの魅力向上に向けた取組が重要である**
 - ・健康寿命の延伸、社会参画促進、地域コミュニティの担い手確保、持続可能で安全安心な環境づくり
- (5) **デジタルを活用した効率的・効果的な行政運営と、健全な財政運営が重要である**
 - ・DXの推進、財源の確保に向けた取組、今後の扶助費等の増加を踏まえた健全な財政運営

市民等意識調査から

■市民意識調査

- ・将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」が最多、次いで「便利」「快適」「居心地がよい」
- ・将来の市のキャッチフレーズは「安全・安心」「住みやすい」「緑・自然」が多い
- ・今後特に注力すべき分野は「安全・安心」「医療・保健」「子育て・教育」が多い
- ・未来に生かしたい強みは「都心への利便性」が最多、ほかに「交通利便性」「武蔵野の自然」「彩夏祭などイベント」

■転入・転出意識調査

- ・転入の理由は、「通勤・通学に便利」「住宅環境」「交通利便性」
- ・転出の理由は、「就職・転勤・転職」

■小中学生の意見聴取

- ・自然豊か、東京に近い、彩夏祭、イベントが多く楽しいところが好き
- ・大人になったら、家族や友人と買い物や食事、公園で遊ぶ、自然と触れ合うなどして過ごしたい

■青少年アンケート

- ・将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」「便利」「快適」「居心地がよい」
- ・今後のまちづくりの方向性は「安全・安心」が最多、次いで「子育て・教育」「買い物等を楽しめる」が多い
- ・未来に生かしたい強みは「都心への近接性」「彩夏祭などイベント」「交通利便性」
- ・朝霞市の自慢や残したいものは、彩夏祭などイベント、交通便、自然や農産物
- ・朝霞市長だったとしたら、遊び場や公園を増やす、朝霞をもっとPRする

■子育て・定住調査

- ・子どもを生み育てやすくするには「経済的支援」が最多、次いで「保育サービス」「子どもの居場所づくり」「教育環境」が重要
- ・朝霞市での子育てでよかった点は「自然の豊かさ」
- ・朝霞市での子育ての改善点は「道路通行の安全」
- ・転入理由は「通勤・通学に便利」

人口推計から

《朝霞市人口の動向》

- ・本市は一貫して人口増加
- ・しかし近年は増加が鈍化する傾向
- ・少子高齢化が緩やかに進行
- ・自然増だが、自然減への突入が近い
- ・合計特殊出生率は1.25(低下傾向)
- ・25~34歳女性の出生率が低下
- ・社会増による人口増加を遂げてきた
- ・しかし近年は転出入均衡に近い
- ・転入超過が多い年代は20歳代後半

《人口シミュレーション》

【出生中位】合計特殊出生率は現状維持
 【出生高位】合計特殊出生率が向上
 【出生低位】合計特殊出生率が低下

【移動高位】純移動率は現状維持
 【移動中位】緩やかに転出入均衡
 【移動低位】比較的早期に転出入均衡

【出生中位】×【移動中位】を軸とした検討

《論点》

- ①総人口に関する論点
ア 本市の人口はどのような傾向で推移するとみるか
イ 出生に重きをおくか、転入促進に重きをおくか
- ②出生に関する論点
ア 合計特殊出生率はどのような傾向で推移するか
イ どのような政策・施策が必要か。子育て世帯支援等
- ③転出入に関する論点
ア 本市の転出入はどのような傾向で推移するか
イ どのような政策・施策が必要か。若者の定住促進等

ベース推計は過去5年間と同様の傾向が今後も続く想定した場合の推計

市民ワークショップから

《朝霞市のよいところ》

- ・都心に近く、交通の便がよい(2路線、バスなど)
- ・シェアリングサイクルのスポットがたくさんある
- ・公園が多い、身近な緑がある、黒目川や森が残る
- ・新鮮でおいしい野菜、地産地消
- ・彩夏祭やイルミネーションなど祭りやイベントが多い、シンボルロードがきれい
- ・転入超過で若い世代が増えている
- ・静かでゆったりしている、都会過ぎず田舎過ぎない

《朝霞市の改善が必要などころ》

- ・道幅が狭く安心して歩けない、坂道の移動が困難
- ・わくわく号の本数やルートの見直し
- ・小中学校や公共施設の老朽化、駅周辺以外が暗い
- ・教育に力を入れる、学童保育や子どもの居場所づくり
- ・球技など自由にできる場所が少ない
- ・商店街の活気、買い物や食事をしたくなる店がない
- ・地域の関係性が希薄、世代間交流がない
- ・全国的に認知度が低い、朝霞と言えばコレがない

《未来の朝霞のひと》

- ・地域の支え合いや交流がある、多様なコミュニティ、多世代参加、ひとのつながりが強い
- ・市民も市外の人も朝霞を楽しめる
- ・子どもへの教育を充実
- ・高齢者を見守り、高齢になっても働ける
- ・若者や働き世代が多い、ファミリー層が住める
- ・子どもや高齢者、外国人など誰もが住みやすい

《未来の朝霞のまち》

- ・交通網の充実、歩きやすい道が増える、夜道の安全
- ・災害に強い、災害があっても安全に過ごせる
- ・緑が多く残っている、川遊びや虫取りができる
- ・多様な公園が充実、子どもの自由な遊び場の充実
- ・誰もが利用しやすい施設がある、大型商業施設、駅前
- ・自然と住環境のバランス、自然との共存

《未来の朝霞にぎわい》

- ・買い物や食事ができる場の充実、娯楽がたくさんある、商店街の活性化
- ・市の魅力の発信、市民に情報が届く
- ・多様なイベント、市民が祭りやイベントの運営を担う

朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】本市の強み・弱みとキーワード

本市の強み（好ましい点、今後も活かしたい点など）

- ◆ 人口の動向
 - ✓ 人口減少社会にあって、人口の自然増・社会増を維持する
 - ✓ 有配偶率、合計特殊出生率が比較的高い
 - ✓ 高い水準の社会増が続いてきた
 - ✓ 高齢化は緩やか
 - ✓ 人口構造が最も若い都市の一つ、子どもと子育て世代が多い

- ◆ まちの性格や環境
 - ✓ 都心への交通利便性が高く、通勤・通学に便利である
 - ✓ 交通の便が良い（鉄道が2路線、バスなども充実）
 - ✓ 公園や身近な緑の多さ、黒目川の水辺や武蔵野の緑が魅力

- ◆ 市民の生活や文化
 - ✓ 健康寿命が長い
 - ✓ 彩夏祭やイルミネーションなどの祭りやイベントの豊かさ

- ◆ 行財政
 - ✓ 財政力指数等多くの指標で他市を上回り、財政状況は比較的良好

資料6-1に示した調査結果

本市の弱み（好ましくない点、今後改善したい点など）

- ◆ 人口の動向
 - ✓ まもなく自然減の局面に突入する
 - ✓ 合計特殊出生率は高いといっても1.25かつ低下傾向
 - ✓ 社会増は近年鈍化傾向にある
 - ✓ 今後の高齢化も予測され対応が必要である
 - ✓ 子どもと子育て世代の移住・定住が鍵となる

- ◆ まちの性格や環境
 - ✓ 昼夜間人口比率が低く、市内で働く市民の割合も低い
 - ✓ 道幅が狭い道路の改善や地域内公共交通機関の維持が必要である
 - ✓ まちなかの商業、商店の活力向上が求められている
 - ✓ 都市の個性や魅力の磨き上げが必要でないか（朝霞と言ったらコレ、等）

- ◆ 市民の生活や文化
 - ✓ 医療提供基盤（医師数・病床数）はやや弱い
 - ✓ 地域コミュニティが希薄、自治会加入率は低く低下傾向

- ◆ 行財政
 - ✓ 経常収支比率が高く、今後も財政の健全運営のための努力が必要

朝霞市が目指すべき方向性のキーワード

人口の増加（及び可能な限りの維持）
 バランスの良い人口構成の維持
 子どもを生き育てやすい環境 教育・学習環境
 移住・定住の促進 住みたい魅力的な環境 個性
 健康で長生き 地域での多様なつながり まちの文化
 買い物の楽しみ まちの賑わい 居心地の良い空間
 交通利便性 移動の手段の豊富さ 歩きやすい道
 都市と豊かな自然の調和 安全・安心 快適

朝霞市の将来像等を構成する要素

第6次朝霞市総合計画の策定の流れ(予定)

年	月	市民	策定委員会	審議会	
R5	4				
	5				
	6				
	7				
	8		● 第1回策定委員会(8/10) ・副委員長の選出、策定方針(案)	● 第1回審議会(8/22) ・委嘱式、策定方針(案)	
	9				
	10		● 第2回策定委員会(10/2) ・策定方針(案) ● 第3回策定委員会(10/16) ・市民意識調査、基礎調査	● 第2回審議会(10/31) ・市民意識調査、基礎調査 ・子育て、転出入調査(案) 確認	
	11	● 市民意識調査・青少年アンケート (11/24~12/25)			
	12	● 子育て・転出入調査 (12/15~1/15)			
R6	1	● 市民ワークショップ(1/20) ● 小中学生の意見聴取			
	2	● 分野別懇談会①(部会ごと) (2/17,18)	● 第4回策定委員会 ・市民意識調査等 報告 ・人口推計、目指す方向性 検討		
	3			● 第3回審議会(3/26) ・基礎調査結果(報告) ・意識調査結果等(報告) ・将来人口推計(議論) ・朝霞市が目指す方向性	
R6	4	上旬			
		中旬	● 第5回策定委員会 ・分野別市民懇談会の結果概要(報告) ・「朝霞市の将来像」や、現行計画でいう「基本概念」 (前回審議会意見を整理して構成)(議論)	● 第4回審議会 ・分野別市民懇談会の結果概要(報告) ・「朝霞市の将来像」や、現行計画でいう「基本概念」 (前回審議会意見を整理して構成)(議論)	
		下旬			
	5	上旬		● 第6回策定委員会 ・基本構想骨子(議論)	● 第5回審議会 ・基本構想骨子(議論)
		中旬	● ポスターセッション(市民説明会) 青少年の意見聴取	● 第7回策定委員会 ・基本構想素案①(議論)	● 第6回審議会 ・基本構想素案①(議論)
		下旬			
	6	上旬			
		中旬			
		下旬			
	7	上旬	● 小中学生の意見聴取	● 第8回策定委員会 ・基本構想素案② 確定・基本構想案(議論) ・基本計画で推進すべき分野別の重点①(議論)	● 第7回審議会 ・基本構想素案② 確定・基本構想案(議論) ・基本計画で推進すべき分野別の重点①(議論)
		中旬			
		下旬			
8	上旬		● 第9回策定委員会 ・基本計画骨子案(分野別重点②と分野別施策体系)(議論)		
	中旬				
	下旬			● 第8回審議会 ・基本計画骨子案(分野別重点②と分野別施策体系)(議論)	
9	上旬				
	中旬				
	下旬	● 分野別懇談会②(部会ごと)			
10	上旬		● 第10回策定委員会 ・基本計画素案①(議論)(1章、2章)		
	中旬				
	下旬			● 第9回審議会 ・基本計画素案①(議論)(1章、2章)	
11	上旬	● 青少年の意見聴取	● 第11回策定委員会 ・基本計画素案②(議論)(3章、4章)		
	中旬				
	下旬			● 第10回審議会 ・基本計画素案②(議論)(3章、4章)	
12	上旬				
	中旬				
	下旬				
R7	1	上旬	● 第12回策定委員会 ・基本計画素案③(議論)(5章、6章)		
		中旬		● 第11回審議会 ・基本計画素案③(議論)(5章、6章)	
	2	上旬	● 第13回策定委員会 ・パブリックコメント案(基本構想案・基本計画案)(報告)		
		中旬		● 第12回審議会 ・パブリックコメント案(基本構想案・基本計画案)(報告)	
	3	上旬	● 市民説明会		
4	上旬	● パブリック・コメント			
	中旬				
	下旬		● 第14回策定委員会 ・パブリック・コメント結果(報告) ・基本構想案・基本計画案(パブコメ後修正案)		
5	上旬			● 第13回審議会 ・パブリック・コメント結果(報告) ・基本構想案・基本計画案(パブコメ後修正案) ・答申案(議論)	
	中旬			● 答申	

※都市計画マスタープランとの連携については、別途進めます。

朝霞市総合計画審議会 委員名簿（敬称略）

令和6年1月現在

	選出枠	氏名	備考
1	第1号 議員	飯倉 一樹	市議会議員
2		陶山 憲雅	市議会議員
3		田辺 淳	市議会議員
4	第2号 教育委員会委員	平木 倫子	教育長職務代理者
5	農業委員会委員	秋山 磨弥	農業委員会職務代理
6	第3号 市内の公共的団体等の役員・職員	加藤 弘樹	連合埼玉朝霞・東入間地域協議会事務局次長（JAM新電元工業労働組合執行委員長）
7		高橋 甚次	朝霞市商工会会長
8		松尾 哲	朝霞市自治会連合会会長
9		渡辺 淳史	朝霞市社会福祉協議会常務理事
10		渡邊 俊夫	朝霞市子ども会連合会会長
11	第4号 知識経験を有する者	内田 奈芳美	埼玉大学教授
12		中村 年春	大東文化大学名誉教授
13		原田 晃樹	立教大学教授
14		星野 敦子	十文字学園女子大学教授（副学長）
15		村上 文洋	株式会社三菱総合研究所 主席研究員
16	第5号 公募による市民	浅田 陽子	市民（候補者名簿）
17		一宮 光夫	市民（立候補）
18		酒井 正弘	市民（立候補）
19		高橋 満	市民（立候補）
20		原田 佐登美	市民（候補者名簿）

※選出枠ごとに50音順に掲載